

創刊100年企画
スタート

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1140



6

June 2024

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜
財団

濟生会

濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani

消滅可能性自治体の辿る道

15年くらい前、富山県南砺市で酒造会社社長の山崎洋さんに誘われて、合掌造りで有名な五箇山の廃村を訪れた。

山崎さんは、東京の大学を卒業し、大手電機メーカーで勤務した後、実家の酒造りを引き継ぐためにUターンした。日本酒

愛好家の間では全国的に知られる三笑楽というブランドの日本酒を醸造・販売している。Uターンしてから地元の町おこしに熱心に取り組んでいる。

当時私は、自然の触れ合いによって子どもたちの健全育成を図るプロジェクトを企画し、適

地を探していた。山崎さんに候補地として案内していただいたのが、その廃村である。

車を降りて獣道を15分ばかり歩いた山中にあった。緑豊かな高木が立ち、低木や雑草が一面を覆っていたが、10戸を超える家屋が立っていた村であることが想像できる広さだった。崩れた石垣がところどころにあり、井戸や墓もあった。人が長い間住んでいたようですが、方々に見つけられた。

樹木の心地良い香りが漂い、子どもたちが遊んだり、キャンプしたりするのに絶好の土地だった。残念なことに計画は、実現することはなかったが、自然の素晴らしさは、ずっと記憶に残った。

しかし、やはり廃村は寂しい。ここにたくさんの方が、千年以上暮らしていたのだらうか。高度経済成長が進むにつれ人が次々に去って行った。

☆ ☆
4月下旬、民間有識者らでつくる「人口戦略会議」が、自治体の4割に当たる744自治体は、将来的に消滅可能性が高い「消滅可能性自治体」に該当

すると発表した。これは20〜30代の女性の人口が、50%以上減少する推計を根拠に分類したに過ぎない。メディアが、「消滅可能性」というショッキングな名称に飛びついただけだ。

消滅可能性自治体は、実態面で予測することができる。兆候は、まず小・中学校区単位で生じる。保育所や小・中学校、そして診療所がなくなる。高齢者が残され、時間の経過とともに冒頭の地域と同じ運命を辿る。これが周囲の小・中学校区に拡大し、病院が消える。病院がなくなると、一層人口が減少していく。最終的には自治体全体が衰退の道に進む。

この現象が、すでに日本のかきで発生している。国が音頭を取る地域医療構想が進行しなくとも、人口の減少は、病院の存立を困難にしている。逆に病院の廃止は、人口減少に拍車を掛け、自治体全体の体力を失わせていく。

病院のあり方は、自治体の存亡のカギを握る。地域政策を考えるときにこの視点を軽視すると、取り返しのつかない誤りを犯してしまう。



昨日、 今日、 明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。
今日を未来へとつなげていくために。
私たちは、お一人おひとりの毎日を、
一つひとつの変化を、丁寧に見つめていきたい。
いつどんなときも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。
これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。





6月のたよりが聞こえる ナデシコ

「済生」をご覧くださいありがとうございます。本誌は今月で満100

年を迎えました。創刊は1924年（大正13）年6月号。その表紙に描かれていたのが「ナデシコ」です。ナデシコは草丈約50センチ、花色は赤、ピンク、白などで世界には300種が分布。日本には秋の七草の一つカワラナデシコなど4種が自生しています。

済生会とナデシコの物語を紹介します。一つは初代総裁・伏見宮貞愛親王殿下が明治45年4月、生活に困窮し社会の片隅で病んで伏している人を露に打たれてしおれるナデシコに例えた「撫子の歌」。ナデシコの花葉に露をあしらったものが済生会の紋章として

定められたのが大正元年10月です。二つ目は済生会歌「なでしこの歌」。済生会精神を歌にしようとして大正14年7月号の「済生」で歌詞を公募、応募要領には「童謡的で歌の後半は合唱部分を入れたい。長くても三番くらいで……」という要望までありました。

審査結果は翌年5月号に掲載されました。一等当選歌は「疲れて力のないチョウがナデシコの露を浴びて蘇る」「貧と病に泣く人の医療と慰安にいそむは済生会の勤め」というもの。同号では「機会をみて作曲をする」と記載がありましたが詳細は不明です。

このほか、昭和の軍事クーデター「二・二六事件」では本部建物内務省の仮事務所となり、済生会救護班が出動した記録も「済生」には掲載されています。改めて連載100年の価値を感じました。

そこで今月から「済生」100年の歴史の一部を紹介する特集を掲載します。

（本部広報課 河内淳史）

表紙のことば

思いやりの心を映し出す悠久の花

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

「やまとなでしこ」この言葉の元になったと言われるカワラナデシコ。なぜこの小さな花が万葉の昔から人の心を捉えたのか。手を広げて笑っているようにも見えるし、楚々としながらも凛として

立っているようにも見える。寂しくも、華やかにも見える。この花を見て人を想う。その時の自分の心を映す。万葉の昔から、この花が映してきたのは人の持つ優しさだからなのかもしれません。



済生

SAISEI

CONTENTS

JUNE, 2024

NEWSな済生人

東京2020パラリンピック金メダル獲得
ポッチャとの出会いは済生会
ポッチャ日本代表

06

杉村英孝さん

〈静岡〉就労継続支援B型事業所ワーク春日
施設長
〈元静岡医療福祉センター児童部・保育士〉

阿部ゆかりさん

済生会交差点

〈済生会子ども鳴滝塾プロジェクト〉WSを重ねて模索した学習支援のかたち。済生会だからこそできることは／〈矯正施設退所者への自立支援〉更生保護施設に相談員を常駐派遣。手探りで支援の体制を構築／〈栄養士の専門性強化〉地域の大学との連携で実現。子どもの食について専門家に学ぶ

10

連載 機関誌「済生」が
開始 創刊100年!

18

巻頭コラム 済生会の不易流行論

消滅可能性自治体の迎える道 理事長 炭谷 茂

03

6月のたよりが聞こえる ナデシコ

表紙のことば 久保田真由美

05

この人 釈由美子

28

口福につぼん 吉井省一

30

だれでもかんたん てづくりおもちゃ

いまいみさ

32

〈石川〉金沢病院一同からのメッセージ

あたたかなご支援
ありがとうございました

災害支援 令和6年能登半島地震

20

ソーシャルインクルージョン

24

TOPICS 34

載々、大雑報 65

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL



静岡医療福祉センターの入所者で結成したボッチャのチーム「ブラック×ホワイト」。大会でメンバー15人がそろった入所中からずっと一緒に、気が置けない仲間がそろった話も尽きない

東京2020パラリンピック金メダル獲得 ボッチャとの出会いは済生会



会福祉法人 恩賜 静岡県済生会
静岡医療福祉センター

ボッチャ日本代表

杉村英孝さん

静岡・就労継続支援B型事業所ワーク春日 施設長
(元静岡医療福祉センター児童部・保育士)

阿部ゆかりさん

東京2020パラリンピック・ボッチャ個人戦で金メダルを獲得、パリ2024パラリンピック日本代表に内定し活躍が期待される杉村英孝さん。生まれたときから脳



「ブラック×ホワイト」のメンバー角替さん（前列左）と深津さん（前列右）。後列左は同センター療育支援課長の望月さん

静岡医療福祉センター

性麻痺の障害があり、小学校入学と同時に親元を離れ18歳まで静岡医療福祉センター児童部（現・静岡済生会療育センター令和）で生活。そこでボッチャと出会いました。当時のセンター入所者で杉村さんが所属するボッチャチームのメンバー・角替一孝さんと深津和道さん、そして同センター元職員阿部ゆかりさんと現職員・望月祐介さんに、学童期・思春期の思い出やボッチャの魅力を語ってもらいました。

中学3年までの10年間お世話になって、高校は地元の学校に行きました。角替 僕も幼稚園を卒業したタイミングでセンターに入所しました。以降、杉村と同じく高校3年まで在籍していました。— 皆さん、入所は同じタイミングなのですね。阿部 車椅子を必要とする障害がある児童の多くは小学校での受け入れが当時は難しく、小学校に上がるタイミングで施設に入所していました。— バリアフリーという概念が当時はなかったのでしょうか……。望月 周囲の認識も今ほどはなくて、親としても入所しか選択肢がなかったことあるかと思えます。— 小学1年生で親元を離れて暮らすなんて、とても寂しい思いをしたのではないですか。角替 僕は何のために施設に入るのか、その目的すら分かっていない状態でした。「え、なんで、なんで」って泣いていたと思います。深津 親とは休日しか会えませんでした。会えない日は親の声を聞くために、テレホンカードを持って公衆電話に並ぶんです。「もう時間だから……」と泣きながら電話を切らなければならなかった記憶があります。

— 杉村さんが抱える障害について教えてください。杉村 先天性の脳性麻痺で思い通りに手や体がスムーズに動かせないという運動機能障害があります。— 深津さんと角替さんも同様ですか。深津 私は先天性関節拘縮という、足の関節が固くなり動きが悪くなる障害です。角替 僕は杉村と同じ脳性麻痺による移動運動機能障害で、上半身と下半身を思い通りに動かすことができません。— 皆さんはどのような流れで静岡医療福祉センター児童部に入所したのでしょうか。杉村 私は小学校に上がる時に入所し、高校3年までの12年間を過ごしました。深津 私も入所したのは小学校からです。

阿部 まだ小学1年生ですからね。泣いて当然ですよ。でも杉村くんは泣かなかったんですよ（笑）。我慢強い子なんだなと思

誰もが「ボッチャ」を通して「一つになれる

多くの支えを胸に、一球入魂
パリパラリンピックで
高みを目指す



静岡医療福祉センター退所後、同センターで開かれた秋祭りにポッチャのメンバーが参加、仲間の一人が製作した木工作品の販売を手伝うために集まった

角替 センターに入所して共同生活で培われ、仲間と過ごす中で、ポッチャのメンバーが製作した木工作品の販売を手伝うために集まった。角替は、仲間と過ごす中で、ポッチャのメンバーが製作した木工作品の販売を手伝うために集まった。

——自分が思うものを、そのままそこで表現できる場になっていると。

角替 センターに入所して共同生活で培われ、仲間と過ごす中で、ポッチャのメンバーが製作した木工作品の販売を手伝うために集まった。

角替 センターに入所して共同生活で培われ、仲間と過ごす中で、ポッチャのメンバーが製作した木工作品の販売を手伝うために集まった。

角替 センターに入所して共同生活で培われ、仲間と過ごす中で、ポッチャのメンバーが製作した木工作品の販売を手伝うために集まった。

角替 センターに入所して共同生活で培われ、仲間と過ごす中で、ポッチャのメンバーが製作した木工作品の販売を手伝うために集まった。

角替 センターに入所して共同生活で培われ、仲間と過ごす中で、ポッチャのメンバーが製作した木工作品の販売を手伝うために集まった。



1 静岡医療福祉センター児童部は2019(令和元)年10月に隣接する静岡済生会総合病院と統合、「静岡済生会療育センター令和」となった。2,3 静岡済生会療育センター令和のリハビリ室と食堂。杉村選手は在籍中、この部屋で生活を送った。4 センターで行なわれる花火大会。杉村選手もこのグラウンドで仲間と花火を楽しんだ

センターの仲間とチーム結成!

——辛い気持ちを抱えながらの生活だったのではと思いますが、どんなことが楽しかったですか。

角替 ミニ四駆やテレビゲームにハマっていました。でもテレビゲームは1日30分と決められていてそれは辛かった(笑)。杉村 季節ごとのイベントがあったときにはちよつとご飯が豪華になったり、クリスマスや誕生日にはセンターの先生からプレゼントをもらったりしていました。それがすごく楽しかったです。望月 皆、クラブ活動も結構活発にやっていますね。お散歩クラブ、折り紙クラブとか、ス

ポッチャも車椅子バスケットやサッカーなどいろいろありました。阿部 杉村くんが高校3年生のとき、車椅子バスケットクラブのマネージャーをしていた私は、障害者スポーツ指導員の資格を取得しようと研修に参加したときにポッチャを知りました。当時はポッチャが日本に入ってきたばかりで今ほど認知されていなくてもいい印象を持ちました。なるほど。それでセンターに持ち帰って子どもたちに教えたいですね。阿部 私はポッチャの試合のビデオを子どもたちに見せたんだけど、折角ビデオを見た後に先生たちからポッチャの大会があるよと教えてもらって、深津くんと一緒にやろうよ」という話をしました。先に高校を卒業していた杉村くんにも声をかけて、静岡県内や東京の大会に出場しました。



阿部さん

杉村 東京に行くときは、先生たちがミニバンを運転してくれたんですよ。すでに卒業した生徒ばかりなのに、業務の域を超えていますね。……!

阿部 別に彼らが特別というわけではない、他の卒業生を連れて出かけたこともありですよ(笑)。望月 それ自分たちのライフワークというか、仕事の延長かもしれないけど、時間や役割に縛られずに子どもたちと関わりが持てたのでとても楽しかった思い出です。

「共生社会」の実現ツールとなる競技

——支える側がそのように楽しんで応援していることが、杉村さんの金メダル獲得のきっかけかもしれませんね。ポッチャの魅力は何でしょうか。阿部 「健常者、障害者という枠にとらわれず誰もがポッチャ」というスポーツとして「一緒にやろうよ」という話をしました。先に高校を卒業していた杉村くんにも声をかけて、静岡県内や東京の大会に出場しました。阿部 「共生社会の実現」という言葉をよく聞きますが、障害があってもポッチャを通じて社会とのつながりができるのが、すごいところ



望月さん



角替さん

れたことがベースとなっていて、ポッチャは個人競技ですが団体競技でもあるので、チームの中でコミュニケーションをどう取るかが結果に大きく影響します。人との接し方やものの伝え方、協調性などはセンターで育まれた部分が大きいと思います。——パリパラリンピックでの目標を教えてください。

杉村 リオパラリンピックでは数%だったポッチャの認知度も50%まで上がってきているように、2人に1人は知らないわけで、パリは東京での盛り上がりやさらにつなげていく大会にしなければいけない。そのためには良い結果を出したいですし、見てく



杉村さん



深津さん

杉村 阿部先生からポッチャを教えること、これが親友や先生、周りのさまざまな方々と出会いながら取り組んでいくことも大事なことです。角替さんと深津くんとも卒業後もずっと一緒に、そうした「つながり」をつくり続けていくことが、障害の有無に関係なく人生を楽しく過ごすために必要なことなのかもしれません。阿部 私がポッチャを紹介したのは、障害に負けず前を向いて、生き甲斐とまでいなくても「人生の励み」となる何かを見つけていってほしいからなんです。今、彼らには済生会の人々以外にもたくさんのサポーターがいます。これからは彼らのように夢を追いかけられるように一緒に歩んでいきたいですね。

WSを重ねて模索した

学習支援のかたち



子どもたちがそれぞれ取り組みたい教科や苦手とするものを持ち寄り、大学生ボランティアが個々に合わせて学習をサポート

済生会 だからこそできることは



長崎県済生会はソーシャルインクルージョンの活動として、4月13日、「済生会こども鳴滝塾」をスタートしました（開塾式の様子はP24、55参照）。塾の名称は、日本に近代西洋医学を教えたシーボルトが江戸時代後期（1824年）に長崎に設けた診療所兼私塾「鳴滝塾」にちなんでいます。

長崎大学附属図書館経済学部分館を会場に、毎週土曜日午後1時から4時までの3時間、近隣の三つの中学校から集まった2〜3年生5人が共に学んでいます。

「塾に行っていないけど、もっと勉強したい」「将来、病院で働きたい」——対象となるのは、そんな思いを持つ就学援助費受給世帯の子どもたち。経済的な



準備室第1回ワークショップ。それぞれの思いを描く「こども学習支援」をマインドマップにして発表し、約1年に及ぶプロジェクト準備が始動した



ワークショップ形式で実施したミーティングは計11回を重ねた

理由で学びの場や機会を得るチャンスが少ない子どもたちへの「済生会ならでは」の支援のかけを職員で考え、つくり上げてきた1年を伺いました。（メディア・リリーフ 坂本陽子）

ワークショップ形式で対話を重ねて

昨年5月、長崎県済生会・支部理事であり、教育面に造詣が

深い長崎大学附属図書館長・浜田久之教授を室長として、準備室を設置しました。メンバーは、支部長、支部事務局長、長崎病院経営企画室長兼総務課長、同院地域医療連携センター長など職員7人。特徴的だったのは、検討会議をワークショップ形式で行なったことです。「生活困窮家庭の子どもへの学習支援」というテーマと「思い」以外は何もないところから、準備室メ

済生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。



長崎大学・浜田教授と学生ボランティアの皆さん



メンバーの描く支援のかたちを一人ひとり出し合って協議し、理

念を組み上げていく——このプロセス自体が、その後の事業を職員が主体的に考えていく体制の礎になりました。

ワークショップは開塾までに計11回行われ、各自で情報を持ち寄りながら、具体的な活動方針や内容、問題点の洗い出しなどを進めていきました。同年8月の第3回ワークショップで支援の内容が「こども学習塾」に固まり、11月の第5回ワークショップでは、プロジェクトの目的に「将来医療人となり長崎の医療を支える人材」を育てることを明記。塾の名称を「済生会こども鳴滝塾」に決定しました。その後は現場責任者や学生ボランティア募集、対象となる生徒への案内、入塾審査・説明会の実施などを行なっていきました。

スクラブに込めた思い

長崎病院 経営企画室 河野太祐



開塾にあたって制作した、塾生用「未来へ駆ける」とスタッフ用「未来へ繋ぐ」の2パターンのスクラブ。これらのフレーズは、スタッフたちの強い信念と塾の理念を象徴しています。

将来医療人となり長崎の医療を支える人材となってくれることを願い、事業を継続させることで、未来の子どもたちへ支援をつないでいく。そして、行動力と前向きなエネルギーをもって、塾生自らが将来の夢に全力で向かっていく強い意志を、駆ける。で表しました。

このスクラブは単なる制服ではなく、未来を拓く使命感と子どもたちとともに歩む決意表明です。塾生とスタッフはこのスクラブを一緒に着ることで、この意味を共有し、一層団結して活動していきます。



大分県地域生活定着支援センターの事業の一環で、独り暮らしの高齢対象者さんと大分市城址公園で毎年恒例の花見会

所者や保護観察中の人で帰る住居がないなどすぐに自立することが難しい人を受け入れる施設です。出向が始まった当初は、支援の仕組みが何もない状態だったため、手探りの中、一つひとつの関係機関とコミュニケーションをとり理解を深めていくという地道な積み重ねで、連携体制を構築していきました。

けた支援などです。新規入寮者に対しては全員、日田病院で健康診断を実施。継続的な治療が必要な場合は、あけぼの寮の近隣医療機関と協力し、近くで安心して医療を受けられる体制を取っています。力を入れてきたのは、自立生活の第一歩ともいえる健康保険証の取得。入寮者の健康保険証の取得率は、職員の常駐派遣が



大学の学園祭に支援対象者さんともに参加することも

始まる前は44%と、取得者が全体の半数にも満たないほど低いものでした。住民登録のある場所に本人の居住状況が確認できないと行政判断で自治体が住民票を削除することがあり(職権削除)、受刑者が矯正施設を退所したときには住民登録がないケースも少なくありません。その場合は住民票の住所設置の手続きから必要になります。また、過去に保険料の滞納があると、その手続きがより煩雑になってしまっ



大分大学で昨年6月に開催された「地域共生社会の実現に向けた実務者ネットワーク会議」で、大分県地域生活定着支援センターが刑余者支援について説明

ともあります。手続きの大変さも相まって、入寮者が自身の健康保険証を持つことへの意識が低いことも課題でした。そこで、入寮者に対してはこうした手続きの意味と必要性を粘り強く説明し、個々の状況に沿った対応を実施。また、これらの手続きの窓口となる自治体などの関係機関に対しても随時協力を依頼するなど連携を深めた結果、現在では平均して90%以上の健康保険証取得率を達成できています。



大分県・県社会福祉協議会との共催で、年1回、権利擁護・地域生活定着支援セミナーを開催

自立生活の第一歩は健康保険証の取得

あけぼの寮で行なう福祉支援の内容は、社会生活の基盤を作るための制度の利用や、自立のための住まいの確保、就労に向

矯正施設退所者への自立支援

大分県済生会

更生保護施設に相談員を常駐派遣 手探りで支援の体制を構築

大分県済生会は、平成22年に済生会で最初に地域生活定着促進事業を受託し、大分県地域生活定着支援センターの業務を開始。同年から大分市内の更生保護施設「あけぼの寮」で日田病院による健康診断や巡回診療を行なうなど、矯正施設退所者への自立支援に取り組んでい

ます。平成27年からは日田病院の相談員が常駐職員として2人出向し、よりきめ細やかな福祉支援を実施する体制を整えました。これは更生保護施設と済生会の双方にとって全国唯一の取り組みです。更生保護施設とは矯正施設退



浜田教授と長崎県済生会・長崎病院のこども塾スタッフ



入塾審査・説明会(令和6年3月)

「分かった!」「できた!」の実感を大切に

こども塾では、子どもたちが勉強したい内容や苦手な教科を持ってきてもらい、子ども1人に大学生ボランティアが1人つくマンツーマン方式。年の近い「お兄さん・お姉さん」とはすぐに打ち解け、分からないことを気軽に聞ける。集中して勉強できる環境になっているようです。また、大学生たちにとっても地域貢献の一端を担うことができ、教えることを通して逆に学ぶ

ことも多いとのこと。元小学校教員の現場責任者は「俯瞰的に塾全体の学ぶ場としての環境を整えています。塾生の子どもと、指導するボランティア学生の間を円滑につなぐ役目も担い、「毎回、塾生に『分かった!』実感を持ってもらえることが、学力向上にもつながる」と話しています。補習塾としての基本スタイルを持ちつつも、子どもたちからの「こういうことがやってみたい」という声があれば、柔軟に取り入れて支援の内容を変化させていくことも検討中です。



大分県地域生活定着支援センター・御手洗和也センター長(左)と深川恵美相談員



更生保護施設「あけぼの寮」に出向している日田病院医療社会事業室の重光俊俊相談員(左)と石田圭相談員

栄養士の 専門性強化

〈東京〉
中央病院附属乳児院
済生記者
新井保久



更生保護施設「あけぼの寮」の内部。矯正施設退所者や保護観察中で帰る住居がないなどすぐには自立が難しい人を受け入れている

社会にも理解してほしい

矯正施設を退所し社会復帰を望んでいても、社会から孤立し、生きづらさを抱える人は少なくありません。その状況が再犯のきっかけにもなりかねません。「誰一人取り残さない」社会にしていくには、一人ひとりに寄

り添った丁寧な支援を行なうとともに、社会の側にも理解をしてもらう必要があります。

大分県地域生活定着支援センターでは、地元の大学の学園祭に支援対象者が参加、バザーの開催や飲食物を販売しています。本人が就労体験を通して働く楽しさや人との交流の喜びを感じ

てもらふこと、また周りにその様子を見てもらい理解してもらうことで、地域とのつながりを持つ一助になります。

セミナーや講演会などでの情報発信も、理解の輪を広げるのに役立っています。

(メディアカル・リーフ
坂本陽子)

地域の大学との連携で実現 子どもの食について専門家に学ぶ



献立の工夫によって、アレルギーを持つ子どもが他の子どもたちと一緒に食事ができるようになる

当院では管理栄養士・栄養士を対象に、近隣にある戸板女子短期大学・食物栄養科の井部奈生子准教授をスーパーバイザーとして、乳幼児の食事提供についてのスーパービジョンを実施しています。スーパービジョンとは、特定の分野で豊富な経験と学識を持つ指導者（スーパーバイザー）から助言をもらうことで専門性を高める教育方法です。

当院と戸板短大・井部准教授とのつながりのきっかけは2019年、中央病院が済生会フェアを企画する際に参画した港区

の養蜂事業。戸板短大もその

一員で、井部准教授が学生活動の担当として参加して

いました。済生会フェアはコロナ禍等で開催できませんでしたが、このときのつながりは、22年に中央病院が開始した港区の



東京都済生会
中央病院附属
乳児院

筆者

行政・地域団体・住民によるまちづくりの取り組み「みんなとプロジェクト」へと発展（本誌22年12月号P10掲載）。中央病院と戸板短大は養蜂事業で採れる「しばみつ」を活用した商品開発や、区のイベントへの参加など、現在も協力して活動を行なっています。

こうした縁もあり、昨年6月29日、当院の遠藤夏美管理栄養士・中居蘭子栄養士が戸板短大を訪問し、井部准教授によるスーパービジョンを初めて受けました。

料理への「ひと工夫」が 子どもたちの食べる意欲に



左から吉岡美律栄養士、藤森一栄調理師、中居蘭子栄養士。「子どもたちに食べる楽しさを実感してほしい」



左から山口鮎香栄養士、西條真麻栄養士、遠藤夏美管理栄養士、志田菜結管理栄養士



「みんなとプロジェクト」でのつながりを生かし、当院では戸板短大の学生ボランティアによる「手作りお菓子の会」を開催（昨年度は2回、本誌24年2月号P77掲載）

付けや色合いをひと工夫するだけでも子どもたちの食への意識、食べる意欲が大きく変わる」ということ。例えば「オクラが嫌いな子どもでも、七夕そうめんの中の星に見立てたオクラは食べることができると「ほうれん草が苦手な子どもは、お浸しにコーンが入り色鮮やかになると食べられるようになる」など。野菜が苦手な子どもは多いですが、おやつ感覚で食べられるように蒸しパンに練り込むなど、野菜というイメージをなくしておいしそうな印象を持たせることもできます。

食物アレルギーについては、コンタミ（予期しない食物混入）を防ぐためにも作業動線や作業工程表を明

確に決める必要があることを学び、実際に当院厨房内の作業動線を見直すきっかけとなりました。また、アレルギーの有無にかかわらず、子どもたち全員にアレルギーが含まれない同じ食事を提供することで、調理中・食事中のコンタミの心配がなくなり、しかしそれだけではなく、アレルギーを持つ子どもが他の子どもたちと一緒に同じものを食べられる喜びを感じられることの大切さにも気付かされたそうです。

第7回 済生会リハビリテーション研究会 in 滋賀

多職種で実現するシームレスなリハビリテーション
—急性期、回復期、生活期の医療と介護—



開催日 2024年11月30日(土)

会場 クサツエストピアホテル

プログラム

- 特別講演
藤田医科大学 主任教授 大高 洋平 先生
- 一般演題発表
演題募集中・8月下旬ごろ締切
- シンポジウム
- 企業展示

詳細はホームページをご覧ください



JR 草津駅

会場まで
駅西口より
徒歩3分

JR 京都駅

草津まで
JR琵琶湖線/新快速 約23分

JR 新大阪駅

草津まで
JR京都線/新快速 約45分

運営
事務局



済生会守山市民病院

<https://www.saiseikai-moriyama.jp>



研究会in滋賀
特設ページ



守山市民病院
ウェブサイト



スーパービジョン第2弾はオンライン講義の形で、当院を含めた全国の済生会乳児院5施設が参加

好評により第2弾を実施

新たな「気付き」を得て日常業務をブラッシュアップするきっかけとなった、井部准教授のスーパービジョン。こうした貴重な機会は当院だけでなく全国の済生会乳児院にも広げたいと考え、2月20日、オンライン講義として2回目のスーパービジョンを実施しました。



アレルギー対応食への献立変更として、ホットケーキは卵を使用しない手作りの型抜きケーキに

し、アレルギーを起こす原因食物やその完全除去の原則、アレルギー食の献立手順・配慮する点、コンタミの注意点、代替食品や災害時のアレルギー対応などについて学びました。

参加者からは「アレルギーに関する最新情報が得られた」「安全を第一に食事を提供するポイントが分かった」など好評で、「次回は『月齢に合わせた食育』というテーマで実施してほしい」と

ヨンを実施しました。

当日は当院のほか、(埼玉)川口乳児院・(栃木)宇都宮乳児院・(宮城)みやぎ乳児院・大阪乳児院から管理栄養士・栄養士7人(当院2人、他4施設5人)が参加。前回の指導内容の中でアレルギーに関する項目を拡充

も。今後も戸板短大と協同で活動を行なう中で、子どもの食に対する知見を高めることができるスーパービジョンを継続的に実施することを検討しています。

筆者は理学療法士として、リハビリができる限りの楽しみものとなるように工夫しています。食育も同様、どの子どもも食事の楽しさを感じられる食育を指していきます。

あなたの写真がカレンダーに!!!

【3年目に突入。大好評のため、今年も実施します】

11月号までに掲載された記事の中で、良い表情をとらえた写真が対象

機関誌「済生」に載った写真の中から編集部が厳選、カレンダーにしてプレゼント! 応募方法は一昨年、昨年と同じ。

【撮影】大きく引き伸ばすので正確なピントと露出に【構図】横。画面に撮影の日付が入っているものは審査対象外

【写真の規格】写真はデジタルデータに限り、サイズは1MB以上【送付方法】いつも通り、原稿と写真をセットにして本部広報課・下記メールアドレス宛に送ってください【参加資格】本会支部・施設の職員

koho@saiseikai.or.jp

表紙の歴史館



創刊号



1929 (昭和4)年1月号

第二次大戦後しばらくして、表紙はカラー化、サイズはA5判(現在の本誌を二つに折った大きさ)から徐々に大きくなっていく



1964 (昭和39)年7月から、中林忠良氏(現東京芸術大学名誉教授)の作品を50年以上にわたって掲載



1976 (昭和51)年から39年間、ほぼ同形のデザインで中林氏の様々な表現の作品を掲載。サイズはB5判(週刊誌大)に。懐かしいと感じる職員も多いのでは



機関誌「濟生」が
創刊100年!

機関誌「濟生」が今月号で創刊100年となりました。

第一号は、1924 (大正13)年6月号です。

太平洋戦争による休刊がありましたが、今日まで月刊で発行し続けています。

そこで「濟生」の歩みを紹介します。

今月は表紙からみる「濟生」の変遷です。

創刊号の冒頭、目次、広告頁など



大 正13年6月の「濟生」創刊号で当時の理事長 公爵二條厚基氏は発刊にあたり次のように述べています。

「これまでの済生会会報を改め、雑誌『濟生』を新たに発刊する理由を一言でいうと、『本会事業を社会に伝えて、広く反響が起きてほしい』としか言いようがない。事業を宣伝したいわけではなく、反響として外部からの刺激が欲しいのである。そして、世の有識者からの鞭撻を望み願うものである」

現在、支部・施設からの寄稿は月100本を超えており、話題も様々です。これこそが「濟生」の魅力だと感じています。

そして、読者対象は職員だけではありません。月1万4000部発行するうちの4割は行政や企業などにも届けています。



「広く社会に反響を巻き起こしたい」という二條元理事長の思いが実現されているのだと思います。次号以降ではバックナンバーから編集部が注目した記事をお知らせします。(本部広報課 河内淳史)



医事課



看護管理室



経営管理会議メンバー

1月1日の地震発生後、被災患者の入院を積極的に受け入れ、1月26日には入院患者の5人に1人が被災者という状況になりました。先が見えない状況で、特に内科医の負担が増える中、1月29日、2月2日に高岡病院、2月5日、9日に新潟病院から、内科医をそれぞれ1人派遣していただきました。内科外来で被災者を含めた初診患者の診察を担当していただき本当に助かりました。ありがとうございます。(院長・荒木 勉)



3A 病棟



3B 病棟



4B 病棟



特に多くの応援看護師が配置された5B病棟



頂いたメッセージは廊下に展示



左から村田拓也支部長、荒木勉院長



看護部から応援看護師へ水引の感謝のプレゼント



医療福祉相談室



5A 病棟

またまたかなご支援ありがとうございました



済生会副看護部長フォローアップ研修メンバーから応援メッセージをいただきました。越田真美前副看護部長(左)と山内千香前副看護部長

元日に発生した令和6年能登半島地震。被災患者を多く受け入れた金沢病院に1月12日から5月2日まで、全国の済生会病院から医師2人、看護師94人、薬剤師8人の計104人を派遣していただきました。職員派遣支援を受けた部署・病棟を中心に金沢病院から支援に対する感謝、災害復興支援のメッセージを送ります。(済生記者 辻 清美)

〈石川〉金沢病院一同



リハビリ部



診療支援部



金沢病院看護師長会



地域連携室



透析室

全国の済生会病院の看護師94人が金沢病院のマンパワーとなり、精神的な支えとなって活動してくださいました。応援看護師の皆さん、関係者の皆さん、ありがとうございます。また、金沢病院に寄せられたたくさんの方々の温かいメッセージで済生会の絆の強さを実感し、がんばるための力となりました。

被災された方々は、まだまだ大変な状況にあります。金沢病院が出来ること、なすべきことは何かを考えて対応してまいります。

(看護部長・越戸和代)

この度の薬剤師派遣に関し心より感謝申し上げます。本部からの依頼に対し、全国の済生会病院から80人を超える薬剤師に手を挙げていただいたと伺い、済生会の結束力を改めて実感しました。

派遣期間を調整し、6病院8人の薬剤師に支援をいただきました。被災者受診時の外来診察前の薬歴確認やカルテ記載、入院患者の無菌調製や定期処方セットのなど中央業務を中心に支援いただき、薬剤業務の負担軽減となりました。薬剤部一同、感謝の思いを胸に、今後も済生会人として職能を発揮してまいります。

(薬剤部長 森戸敏志)



感染対策室と医療安全対策室



左から三國秀雄事務部長、龍澤泰彦副院長、越戸和代看護部長



健診センター



薬剤部



入退院支援室



4A病棟



事務部。調整担当者は相談窓口となり、派遣期間や勤務・宿泊先などに関する調整をし、派遣当日には1.5次避難所の視察案内を行なった

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。
無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
だれも排除されないまちづくりを目指し、
全支部・施設が1600の事業を展開します。

身寄りなし問題について考える 京都での研究会に40人

済生会身寄りなし問題研究会



第4回済生会身寄りなし問題研究会が4月13日、京都済

生会病院で開催され、オンライン参加を含め、全国から約



40人が参加しました。はじめに、新潟で身寄りなし問題に取り組んでいる須貝秀明氏を講師に迎え、「元、包括の職員が徒歩で日本を縦断して訴えたかったこと」と題して講演していただきました。続いて、京都済生会病院福祉相談室の南本宜子さんから首長申し立てが進まなかっ

たケースについての事例報告。その後はグループに分かれて話し合い、それぞれの事例や問題への対応方法・留意点を共有しました。講師に対する質問も多く、活発な意見交換が行なわれる有意義な会となりました。
(会長) 神奈川県病院
地域交流室長 鎌村誠司



長が挨拶。済生会の歴史や当塾の取り組み等の説明がされた後、それぞれ自己紹介し、当塾への思いなどを語りました。集まった塾生は5人(中学2、3年生)。開塾式後は各自取り組みたい内容などを学生ボランティアに伝え、当塾での初めての学習を開始しました。最初は緊張していた塾生たちも、ボランティアの優しい声かけですぐに笑顔が見られるように。「意



外と時間が過ぎるのが早かった」と集中して勉強できた様子でした。ボランティアたちも「学ぶ気持ちに応えられるよう、自分た

ちも復習してきます！」と意欲的。塾生だけでなくボランティアスタッフにとっても良い経験の場になると感じました。
(経営企画室 河野太祐)

「未来へ駆ける・未来へ繋ぐ」 済生会子ども鳴滝塾、開塾!

長崎病院

宇都宮市内の陽東ロータリークラブから、4月16日に寄付金の贈呈がありました。同クラブは日ごろから社会福祉事業に力を入れています。今回、当院のなでしこプランの活動趣旨に賛同していただき、寄付の申し出を受けました。贈呈式では、川人健司・同クラブ会長から当院の野間重孝

院長に目録が渡されました。野間院長は「今回いただいた寄付は有効活用させていただきます。なでしこプランを通してSDGsの『誰一人取り残さない』という理念を具体化し、創立の理念を実現していきます」と謝意を述べました。
(地域連携課 秋山綾香)

4月13日、長崎大学附属図書館経済学部分館で「済生会こども鳴滝塾」開塾式を行いました。

も鳴滝塾」開塾式を行いました。はじめに、塾長の野川辰彦・

長崎県済生会支部長、浜田久之・長崎大学附属図書館長(支部理事)、南森茂太・経済学部分館

陽東ロータリークラブから寄付

〈栃木〉宇都宮病院



オープンイノベーションセンター新設 支部内外の連携を強化し事業推進

北海道済生会

北海道済生会はウエルネスタウン構想のさらなる推進を目指し、4月1日に「オープンイノベーションセンター」を立ち上げました。既存のソーシャルインクルージョン推進室に経営企画室を新設してセンター化。新メンバー

にMBAホルダー2人が加わりました。企業や行政との連携を強化して支部内外の技術やアイデアを組み合わせながら事業を推進し、当会が進むべき方向を示していくことを担います。小樽市と当会は「地域共生社会の実現に関する包括連携協

定」を結んでいます。今後は当センターが地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する課題を一元的に把握。横断的な支援を提供するための支援機関の整理・調整、相談者本人への直接的な支援も行ないながら、地域共生社会の実現を目指した重層的支援体制整備事業を小樽市と協働して進めていきます。
(小樽病院 広報室 松尾覚志)



みんなとプロジェクト×戸板女子短大 地域で採れたはちみつでコラボ

〈東京〉
中央病院



5月7日、当院がソーシャルインクルージョン事業として運営する地域版SDGs「みんなとプロジェクト」と戸板女子短期大学とのコラボ企画のキックオフミーティングを行いました。

集まったのは新1年生の7人。本企画は昨年に引き続き2回目の実施で、今回も港区で採れるはちみつ「しばみつ®」を使用した新しいお菓子レシピの考案に取り組んでもらいます。

当日は、プロジェクトのこれまでの活動と、運営メンバーの紹介を行いました。

イオン水戸内原と連携 地域住民の健康づくりを目指す

〈茨城〉水戸済生会総合病院



参加する皆さんには港区産はちみつの魅力を生かし、若い感性ならではのユニークなお菓子作りを期待します。考案されたお菓子は、地域のお祭りや東京タワーでのイベントでお披露目する予定です。

(済生記者 鈴木香純)



当院とイオンモール水戸内原は3月24日、「未来に向けた持続可能なまちづくり協定に関する覚書」を締結しました。

締結調印式では、当院の生澤義輔院長とイオンモール東関東事業部の木村徹哉部長が覚書に署名。生澤院長は「当院の機能とイオンモールの集客力を合わせ、人々の健康維持に改めて取り組んでいく」、木村東関東事業部長は「未来



に向けた取り組みをさらに強化できることはありがたい」と述べ、地域の持続的な発展や社会貢献事業に連携して取り組むことを誓いました。

調印式後は健康相談フェアを開催。地域住民約80人が来場し、「買い物と一緒に健康測定ができるのは便利」「継続して実施してほしい」など好評でした。

(企画広報課 番場淳一)

外国籍の区内小中学生に 日本語学習の場を提供

〈神奈川〉特養わかさ



4月から、毎週木曜日の午後、当施設の多目的室（地域交流室）を金沢区内で暮らす外国籍の小中学生の日本語教室として開放しています。

名称は「かもめ教室」。NPO法人「横浜金沢国際交流の会」が運営しており、ボランティアが小中学生にマンツーマンで日本語を教えます。利用者は現在15人ほど。当施設は学習指導には直接関与していませんが、一生懸命に日本語を

〈福岡〉飯塚嘉穂病院

新年度に向け食品・学用品寄付 子どもたちの不安を期待に

第5回フード&学用品ドライブ



勉強する子どもたちを陰ながら応援しています。このつながりを生かして、いずれば当施設の入居者さんと教室で学ぶ子どもたちとの交流の機会が持てたらと考えています。

(施設長 清水 雅)

ブ事業を3月15日に開催しました。

2週間で集まった食料品・学用品は計598点。同月21日にフードバンク飯塚、フリースクールみんなのおうち、嘉麻市社会福祉協議会へ寄付しました。

昨今の物価上昇に伴い、食料品の寄付が減っているとのこと。当院では今後も長期休暇前の年3回、フード&学用品ドライブの実施を継続していきます。

(社会福祉士係長 MSW 岡松佳央里)



釈由美子

Yumiko Shaku

大のゴジラ映画ファンであるエリック・マキーバー監督から直々のオファーを受け、特撮シーン満載のアメリカ映画へ出演を果たした釈由美子さん。現在7歳の男の子のママでもあります。子育てとの両立でも気負わず、仕事を続ける秘訣について聞きました。

Text: みやまおちみ Photos: 安友康博



2002年の映画『ゴジラ×メカゴジラ』の主演をきっかけに、その名が国境を越えた。「高校生時代の頃、あの映画に衝撃を受け、いつか釈さんと仕事をするのが夢でした」とマキーバー監督に言われ、『イケボーイズ』の出演を快諾したという。物語のカギを握る重要な役を演じ切り、完成したのは、日本の特撮とアニメ、アメリカの青春ドラマが融合したアナーキーワールド。「うちは息子も特撮が好きで、試写を見て、すごく楽しかった」と。映画館にも一緒に行くつもりです」と母の顔をのぞかせた。

今後の展望をたずねると、「今後の私の最優先は、子どもを幸せに成人させること。次はこんな作品に挑戦してみたいといった欲はありません。でも、息子は『お仕事をしているママはカッコいい』と応援してくれる。ですから、ご縁があつて、私で役目を果たせるなら一生懸命がんばるだけです」

休みはもっぱら親子登山を楽しんでいるのだとか。「現代社会では動画やゲームに走りがちですが、山を歩くことで体力・精神的にも自立して、より子どもの成長を感じることが出来ます。私自身も自然に学ぶことは多く、こうして地に足をつけて生きていく人間が演じることで、見ている人に何かが伝わればうれしいです」

しゃく・ゆみこ
1978年、東京都生まれ。映画『修羅雪姫』『ゴジラ×メカゴジラ』、ドラマ『スカイハイ』『7人の女弁護士』で主演を務めるなど出演作品は累計100作を超える。登山愛好家としても親しまれ、登山番組「実践! にっぽん百名山」では番組MCを務めた。映画『ロックダウンホテル/死霊感染』(カナダ)での海外デビューに続いて、『IKE BOYS イケボーイズ』(アメリカ)に出演。特撮作品との縁も深く、7月公開の映画『カミノフデ〜怪獣たちのいる島〜』にも出演している。

ゴジラファンの監督から熱烈オファー！ 親子で楽しめる米映画に出演



Hair & Make-up: 田中宏昌
Styling: 安永陽子
衣装協力:
●トピス・スカートともに
ミランニ/ドレスアンレーヴ
●イヤリング
ラ・キアーヴェ/ドレスアンレーヴ

『IKE BOYS イケボーイズ』
日本のカルチャーが大好きなオタクアメリカ人高校生に巻き起こる騒動を描いたファンタジー。不思議な力を持つ日本のアニメDVDによって、スーパーパワーを手に入れた主人公ショーンと友人ウィック、そして、日本からきた留学生のミキが世界の存亡がかかった陰謀に巻き込まれる。
■監督・脚本: エリック・マキーバー ■造形監修: 村瀬継蔵
■出演: クイン・ロード、ローナック・ガンディー、比嘉クリスティーナ、釈由美子、ベン・ブラウダー、岩松了/ビリー・ゼイン ほか
2024年6月14日(金)から全国ロードショー



口福につぼん

吉井省一

ラン「ドイツシュバレード」。
一般的にカレーパンとい
えば、揚げたものがほとん
どですが、こちらのカレー
パンは、焼いたもの。コロ
ナ禍で来店できないお客様
のために、自宅で食べられ
るものをというこで始ま
ったメニューで、時間がた
っても美味しい状態のまま
食べてほし
いという想い
から、焼きカ
レーパンにな
ったとのこと。
その大きな



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

焼きカレーパン グランヴィア5

《ホテル
グランヴィア
広島》
広島市

日本人の食生活に、もはやカ
レーは欠かせない存在。王道の
カレーライスにはじまり、カレ
ーうどん、ドライカレー……。
学生時代に通った喫茶店にはイ
ンディアンスパゲティ（インド
つながりのネーミングか？）と
いうメニューもありました。

町のパン屋さんでよく見かけ
るカレーパンもそのひとつ。パ
ンとカレー、どちらも楽しめる
のでお得感があり、食べごたえ
もあるのが、大人から子どもま
で人気を呼んでいます。

今回は、日本全国数あるカレ
ーパンの中でも、パン生地はも
ちろん、フィリング（具）にも
こだわり抜いた、個性派カレー
パン5種をご紹介します。



黄・黒・緑・白・赤と5色のカラフルな見た目、
食卓を華やかに彩ってくれる

この焼きカレーパンをつくっ
ているのは、JR広島駅に直結
したホテルグランヴィア広島内
にあるカフェ&ブッフエレスト

特徴は、ホテル内にある七つの
レストラン&バーの調理長たち
が、カレーパンに合うフィリン
グ（具）を考えて提供してい
るところにあります。

言わば「食のプロた
ち」が結集し生み出
した、とっておきの
美味といえるのです。
これだけこだわっ
たカレーパンなので、
もちろん外部からも
高く評価されていま
す。カレーパン界の
権威である「全国カ
レーパングランプリ」

では、2021年にGREEN
が焼きカレーパン部門、YEL
LOWがキーマカレー部門で金
賞を獲得。2022年は再びG
REENが焼きカレーパン部門
で、2023年はBLACK
がバラエティ部門で金賞を獲
得するなど、もはや金賞の常
連カレーパンです。
シェフとパン職人が
コラボした旨みを堪能
いただき方は簡単。個包装
の一部をカットして電子レン
ジで温め、その後オーブント
ースターで軽く焼けばできあ



「全国カレーパングランプリ」での数回
にわたる金賞受賞はパン職人たちの誇り

がり。ふかふかしたパン生地が
焼きたてのようで、美味しそ
う。
まず、金賞を2回も受賞して
いるGREENから。ほうれん
草が練り込まれた緑色のパンの
中には、本格的なタイ料理のグ
リーンカレーがたっぷり。バイ
マックルー（コブミカンの葉）
の芳香と青唐辛子の辛さが程良
くアクセントになっていて、後
を引く味わいです。

次に、生地にかぼちゃのピュ



ホテルグランヴィア広島はJR広島駅に直結、県外からも好アクセス。パティスリーや
ラウンジで提供されるスイーツにも定評があり、ホテルショコラティエが手掛ける、隠し
味にお好みソースが使用された高級チョコレートなども販売されている



①エビチリ×中国山椒の「RED」/②すきやき
風煮込み×広島県産牛のコウネの「WHITE」
/③黒ビーフカレー×チーズの「BLACK」/④
グリーンカレー×グリルチキンの「GREEN」
/⑤キーマカレー×黒豚ソーテとナッツの
「YELLOW」—— レストランのシェフとパン
職人がコラボしたオリジナリティあふれる豊
かな味わいは、次から次へと手が伸びて食べ
飽きない

ーレを加えたYELLOW。ス
パイしがきいたキーマカレーに
豊かな風味の黒豚のソーテがび
つたり。ナッツの歯応えとの組
み合わせがこれまた絶妙です。
ここで、ホテル内の日本料理
店「瀬戸内」自慢のすきやき風
煮込みを使ったWHITEへ。
広島のソウルフードであるコウ
ネ（牛の肩バラ肉）を使ってい
るのがこだわり。広島県人好み
のコウネの旨みがカレーの素材
としても魅力を発揮。和風に仕
上げられた味がお子様やお年寄
りの方にも好まれそうです。
そして、カレーパンらしくな
い色合いのBLACKへ。中の
ビーフカレーも黒くて、スパイ
シーでコクがあり、焦がし玉ね
ぎの香ばしさが食欲をぐっとそ
そります。チーズも入っていて
旨みのバラエティも豊富です。
最後に、中国料理「煌蘭苑」
の人気メニューエビチリにフレ
ンチのソース「アメリカーナ」
をからめたRED。程良く中国
山椒の辛みがきいたプリプリの
海老が存在感を放っています。
パン好きもカレー好きも、ど
ちらも満足させてくれる味わい
深い焼きカレーパン。小腹が空
いた時にもってこいの逸品です。



焼きカレーパン グランヴィア5
[グリーン・イエロー・ホワイト・ブラック・レッド]
各1個 計5個]
3,300円（税込・送料別）
賞味期限……発送より冷凍30日

お取り寄せ・お問い合わせは ホテルグランヴィア広島
〒732-0822 広島県広島市南区松原町1-5 TEL:082-262-1218
ホームページ: <https://granviahiro.base.shop>



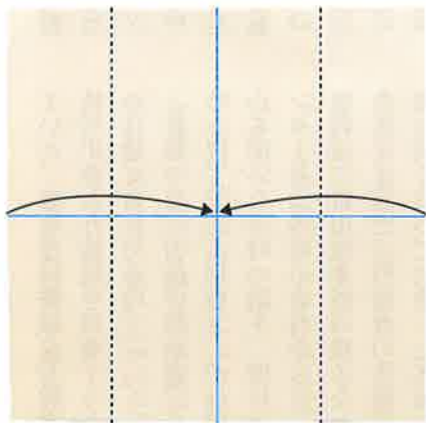
太陽をあびて ニコニコひまわり



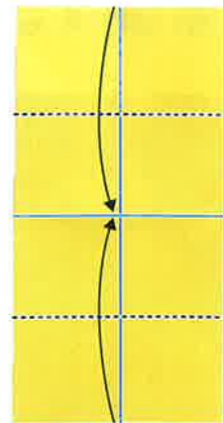
HAPPY
SUMMER

花 A

1 十字に折り目を付けて、
中心に折る



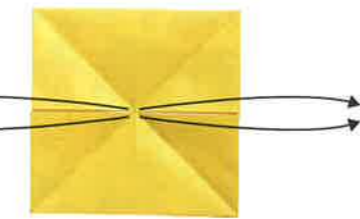
2 上下の辺を
中心に折る



3 点線で折り
戻す

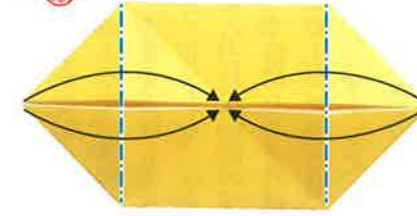


4 内側を引き出す

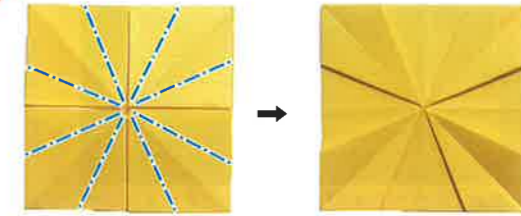


--- 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

5 点線で折りつぶす

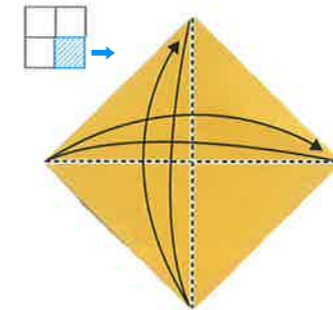


6 点線でうしろに折る



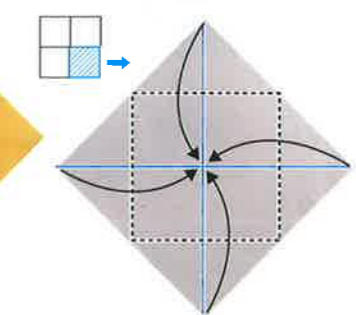
花 B

1/4に切った折り紙を立体的になるように
十字に折り目を付ける



花 C

1 1/4に切った折り紙を
十字に折り目を付けて、
中心に折る



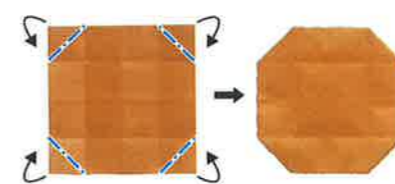
2 裏返す 3 十字に折り目
を付ける



4 ③の折り目に合わせて、
縦横4等分になるよう
折り目を付ける

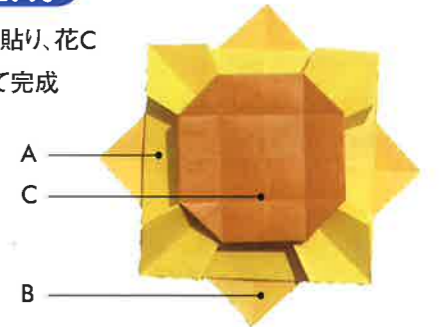


5 点線で後ろに折る



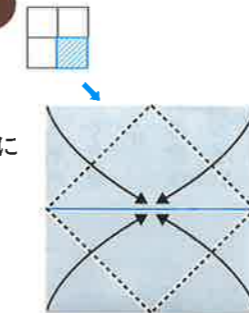
花 完成

花Aを花Bに貼り、花C
の上に貼って完成

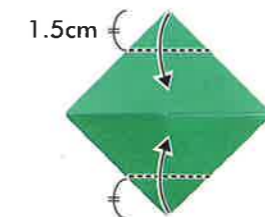


葉

1 1/4に切った折り紙に
中心線を付けて、
中心に折る



2 上下の角を折って、裏返す



3 中心に折り目を付けて、
立体的にする



花と葉を
貼り合わせて
かざってね♡



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えてます。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ髪飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。



動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



ように整備し、医師が残業申請する際の参考データとして活用しています。

2月から4月にかけて、こうした当院の取り組みがNHK・RKB毎日放送、TNCテレビ西日本の3社に取り上げられました。

取材では、壁村哲平院長が医療現場の現状やこれからの課題、当院の取り組みの成果などについて説明。その後、救急外来やカルテ室、医局などで現場の医



師への取材も行ないました。

3社ともウェブニュースとして放送内容が確認できますので、よろしければご覧ください。

（済生記者 久富大史）

（東京）中央病院

**音楽に合わせて踊る！
認知症予防プログラムを体験**

認知症予防プログラム実践講座を4月17日に開催しました。

本プログラムは軽度認知障害の人を対象とし、認知症予防に関する情報提供に加えて、ダンスの要素を取り入れたユニーク

な方法で行なわれます。音楽に合わせて、リズムをとり、振り付けをまねし、体で表現するという四つの要素（音楽・認知・運動・創造）により、複数の脳機能を同時に使用することで脳を刺激します。

監修は認知症疾患センターの山田碧医師。今回は9人が受講し、春をテーマにチョウや桜の木などを体で表現したり、ボールを渡しながら春にちなんだお題を発表するリレーを行なったりしました。

（済生記者 鈴木香純）

（愛媛）小田特養緑風荘

移動動物園で触れ合い体験

4月17日、約6年ぶりにとべ動物園による「移動動物園」が開催され、入居者さん30人、デイサービス利用者さん7人がモルモット、カメ、ヘビ、剥製（タヌキ・ハリネズミ）などと触れ合いました。

かごに入ったモルモットを膝の上に乗せ「かわいいなあ、ふわふわしとる」と言いながら、うれしそうになる人も、飼育員とができた人も、飼育員

さんの説明に聞き入った後は、「怖い、怖い」と言いつつ「触ってみよか」とチャレンジしていました。

限られた時間でしたが、動物を通じて会話も弾み、笑顔があふれ、皆さんに楽しんでいただけたようでした。

（済生記者 久保健太）



〈茨城〉水戸済生会総合病院併設のなでしこ保育園。子どもたちがコイのようにたくましく、元気に大きくなることを願った。

topics

加藤登紀子さんが来訪

（福岡）二日市医療福祉センター



「百万本のバラ」などで知られるシンガーソングライターの加藤登紀子さんが、3月19日に当センターを訪れました。

二日市病院に隣接する特養むさし苑の敷地にある水子地蔵に手を合わせた後、加藤さんは壁村哲平センター長と対談しました。

この水子地蔵は太平洋戦争終戦後に二日市保養所（現むさし苑駐車場）で秘密裏に行なわれ

ていた、望まない妊娠をした女性の中絶した胎児を供養するために建てられたもの。

対談では、引揚げ経験者（当時2歳）である加藤さんが母親から聞いた当時の話を、壁村センター長は当時の資料から読み取れる二日市保養所の様子などを伝えました。引揚者の苦悩や、使命感を持って治療した医師の思いなどを改めて感じることができました。

（済生記者 久富大史）

★この話をいつまでも忘れずに伝え続けていく必要がありますね。

（本部広報課 杉山菜葉）

医師の働き方改革への取り組みがテレビで紹介

（福岡）二日市病院

当院では「医師の働き方改革」への取り組みとして、昨年6月からDr.JOYという位置特定技術搭載のビーコンシステムを導入・活用しています。

Dr.JOYは各医師がビーコンを身につけることで、病院内のどこにどれだけいたかが確認できるシステム。どこにいるかで勤務中か勤務外かを把握できる

看護学生の心に響いた、炭谷理事長の熱い思い

〈栃木〉宇都宮病院看護専門学校



炭谷茂理事長を招き、5月8日、「看護に関する済生会概論」と題した講義が宇都宮病院みやのわホールで行なわれました。

当日は静岡校・中津校もオンラインで結び、3校合わせて150人の学生が受講。講義では済生会の歴史・理念をはじめ、社会的支援を要する人への対応やソーシャルインクルージョンに基づくまちづくりの推進など済生会が担う使命、目指すことについて、炭谷理事長に熱く語っていただきました。

受講した学生からは「ソーシャルインクルージョンの理念が国レベルになり、これからどうなっていくのかを考えるのが楽しい」「高齢者や障害者、刑余者などと共生していくためには、国民の考えを変えることを促す前に、済生会の学生である自分から変えていかなければならない」「誰にでも平等にというのは、簡単そうに思えて今までを振り返るとできていない自分もいた」「患者さんの気持ちになつて」という言葉は、看護の基



オンラインで参加した中津校(左)と静岡校。その他は録画で受講、済生会の役割を学んだ

盤であり、偏見を取り除くために必要」などの感想がありました。炭谷理事長の熱い思いは皆の心に強く響いたようです。

〈教員 千葉邦子〉

〈山口〉下関総合病院 地元情報発信サイトに協賛 当院の魅力を細やかに発信

当院は3月1日、下関市が運営する情報発信サイト「しもしもっ」に協賛しました。このサイトは市民だけでなく、市周辺の住民や旅行者に向けても情報を発信し、市の魅力を広く伝えていきます。特徴は行政からだけでなく市民の皆さんの投稿という形で、よりきめ細か



い情報発信を目指していること、まだまださらには内容が充実し利用者も増えていくでしょう。「しもしもっ」に協賛したことで、当院ホームページへのアクセス経路が増えました。さまざまな人から見られる機会が増えるので、当院をより広く知り身近に感じてもらえるようお知らせイベント等の情報を発信していきます。

〈済生記者 安岡佳成〉

〈神奈川〉横浜市東部病院 164人を迎え入職式

4月1日、当院多目的ホールで入職式を行いました。今年度の入職者は計164人。医師58人、看護師80人のほか、薬剤師4人、管理栄養士2

人、救急救命士2人、理学療法士1人、作業療法士2人、助産師3人、臨床検査技師1人、臨床工学技士3人、公認心理師1人、介護福祉士1人、歯科衛生士2人、事務員1人、メディアカールアシスタント3人です。三角隆彦院長は「質の高い急

性期医療と専門医療を提供する役割を担う当院で、皆さん自身が成長し、後輩にも育ってほしい。そして楽しく働いて、幸せになっていただきたい」と激励の言葉を贈りました。

〈済生記者 荒木愛美〉



〈三重〉松阪総合病院

腹部超音波検査に関する 全国規模研究会に129人

第37回日本腹部造影エコー・ドプラ診断研究会が、4月20日、三重県総合文化センターで開催されました。

本研究会は、腹部超音波検査の中でも造影・ドプラ検査に特



化した全国規模の研究会で、三重県での開催は今回が初めて。大会長は三重県済生会顧問の山本幸治氏が務め、開催準備・運営は当院臨床検査課を中心に進めました。

当日は、全国から129人(企業24人含む)が参加。特別講演や教育講演、「造影超音波検査の未来を考える」タスクシフト・シェアについて」と題したセッションなどの特別企画、28件の一般演題発表や超音波診断機器の展示が行なわれました。

〈医療技術部 臨床検査課 西井 薫〉

「こんなに動きにくいとは！」
高齢者の日常を疑似体験

〈北海道〉小樽老健はまなす

トや膝・肘を固定する器具を身

身体機能が低下した高齢者の疑似体験をする授業を3月6日、小樽市立塩谷小学校5年生11人を対象に行ないました。講師は理学療法士の塩野谷千恵子課長他6人のスタッフ。おもしろい入ったペースに付け、杖を使つての階段昇降、特殊なゴーグルによる高齢者の視野体験や、腰を曲げた状態で固定する器具を着用した歩行など、盛りだくさんの内容を実施しました。はじめは興味半分で面白がっていた生徒たちでしたが、次第に真剣な表情に。体験を通して何かを感じてくれたようです。授業の後、生徒たちから「困つてる高齢者がいたら助けてあげたい」などの声があり、講師をした職員も喜んでいました。当日は北海道放送と北海道新聞の取材が入り、生徒たちは恥



ずかしがりながらも真剣にインタビューを受けていました。
(済生記者 伝法俊和)

〈神奈川〉金沢若草園

4月1日から利用者さん2人、新卒職員2人が新たに加わり、



小川さん(右)と久保さん

員を経験しています。

小川さんは「障害福祉に限らず医療等さまざまな事業に取り組むことができる済生会に魅力を感じた」、久保さんは「金沢若草園の基本理念である『寄り添う支援を目指して』という考え方に強く共感した」と人職理由を熱く語ってくれました。

(済生記者 日高 純)

〈愛媛〉小田老健ふじの園
5年ぶりの遠出で
心からリフレッシュ

4月10日、入所者さん6人と職員4人で、施設から南に車で30分ほどの大洲市へ出かけました。

昼食は久しぶりの外食とし、「うどんかめや」で。その後はフラワーパーク内の菜の花やチューリップを觀賞しつつ、ゆっくりと思いに散策しました。帰りには近くで買い物をして、皆大満足で帰路につきました。後日感想を聞くと「お花がき



れいね」「外は気持ちがいいね」「おうどんおいしい」など期待していた通りのコメントが。コロナが明け、本格的に外出し

新センター長の初仕事として、5月8日、スタッフとともに福井県健康福祉部健康医療局保健予防課を訪問。同課の肝疾患対策グループと意見交換を行いました。

福井県済生会病院
平松肝疾患センター長の
もと新体制スタート

4月1日、平松活志副院長・内科主任部長が肝疾患センター長に就任し、

新体制での運営がスタートしました。



平松センター長(前列右から2人目)。看護師で肝炎医療コーディネーターの橋本まさみさん(前列右)は「済生」2018年12月号のNEWSな済生人に掲載

当院は平成20年に「肝疾患診療連携拠点病院」の指定を受けた県内唯一の病院です。多職種が連携し、さまざまな角度から肝疾患の診療に取り組んでいます。

平松センター長は「これから福井県における肝疾患診療の向上に努めたい」と意気込みを語りました。

(肝疾患センター 吉川千恵)



〔山口〕下関総合病院
大きな成長を感じた卒園式
「第38回済生会下関総合病院
院内保育所卒園式」を、3月29

けて以降5回目の審査で、サー
ベイヤーからの講評では大きな
指摘もなく無事終了。今回の審
査でも多くの気付きを得ること

（山口）下関総合病院

ができ、有意義な機会となりま
した。最終的な結果の通知は3
カ月後です。
（ISO事務局 田部佑哉）

日、院内保育所で行ないました。
10人の卒園児は一人ひとり名
前を呼ばれ、森健治院長から卒
園証書を受け取りました。その
後、院長からお祝いのお言葉

をいただき、
最後に皆で
練習した「み
んなともだ
ち」を楽し
く大きな声
で一生懸命
歌いました。
保護者や
保育士の中
には、入園
当初を思い
出しながら
成長した姿
に涙ぐむ姿
も見られ、
感動的な卒
園式となり
ました。
（経営管理課
青木貴大）



新入園児16人の歓迎会を4月
24日に行ないました。
当日は年長児19人が新入園児
のクラスに行き、今まで練習を
してきたチューリップやアンパ
ンマンの手遊び歌を歌ったり、
だるまさんシリーズの絵本を読
み聞かせたりしました。
新入園児たちも、お兄さん・
お姉さんが頑張っている姿や楽
しそくに踊っている姿を見て一
緒に歌い・踊り、終始笑顔に包
まれていました。
最後に年長児からメダルのプ
レゼント。一人ひとりにメダル
をかけてあげ、「おめでとう」「ま
た遊びに来るね」と言葉をかけ

入園おめでとう

長野保育園



ました。小さいお友だちは「バ
イバイ」と手を振り返し、温か
い雰囲気うちに歓迎会を終え
ました。（保育士 三沢陽和）



米国内科学会から最高荣誉のMACP

福井県済生会病院

4月18日、アメリカ・ボス
トンで行なわれた米国内科学
会（ACP）で、当院内科部
長兼集学的がん診療センター
間の元雄良治医師に最高荣誉の
「Master of ACP (MACP)」
の称号が授与されました。
ACP 日本支部の発展や医
学英語教育への貢献、がん支持
療法への漢方の活用を世界に発
信した実績が認められたもの
です。元雄医師は2000年に



同学会フェロー（FACP）に
認定され、今回、日本人として
は9人目のMACPとなりました。
元雄医師は「大変名誉なこと
で、これからも英語による世界
への発信と国際交流を続けたい
。また、内科医として、患者さん
やご家族が病院に来てよかつた
と思えるような診療を心がけた
い」とコメントしました。
（済生記者 田中一弥）

病院機能評価の更新審査

（大阪）中津病院



5月8・9日の
2日間、日本医療
機能評価機構のサ
ーベイヤー7人が
来院し、「病院機
能評価」の更新審
査が行なわれまし
た。
今回は「患者中
心の医療の推進」
「良質な医療の実践1・2」「理

念達成に向けた組織運営」の四
つの評価対象領域から構成され
る評価項目を用いて、病院組織
全体の運営管理と提供される医
療についての確認がなされまし
た。
2003年に初回認定を受

4年ぶりの新人歓迎会

〈山口〉下関総合病院

4月12日、28人の新採用者を迎え、看護部むつみ会による新採用者歓迎会を開催しました。森健治院長を来賓に迎え、217人が一堂に会し、大いに盛り上がりました。



藤田恵看護部長から、コロナ禍を皆で乗り越えたことや他施設への災害派遣に協力したことなどを経て、4年ぶりに歓迎会を開催できる喜びと感謝の言葉がありました。

前半はステージで各部署の新採用者が、一人ひとり趣味、好きな食べ物やスポーツなどを交えて自己紹介。後半は済生会の歴史に関連したクイズがあり、笑いに包まれたひとときに、会の後には、取り仕切ってくれた看護部むつみ会の役員への感謝の声が多く上がりました。

〈副看護部長 首藤悦子〉

「医療介護連携の会」が始動

和歌山病院

4月25日、「第1回済生会和歌山病院医療介護連携の会」を開催し、院内外から85人が参加しました。

記念すべき初回は、介護施設や地域包括支援センターの職員を対象に、当院感染管理認定看護師の佐藤慎悟師長が「こご



けは押さえておきたい！ 感染対策」、救急看護認定看護師の保脇佳奈恵副師長が「困ったときのミカタ」をテーマに講演を行いました。

参加者からは「今後も機会あればぜひ参加したい」「興味のあるテーマでよく理解できた」「和歌山病院に頼ることができると安心」「施設での研修参加もお願いしたい」などの多くのうれしい感想をいただきました。

〈済生記者 松元靖寿〉

地域と連携し 避難所開設訓練

〈兵庫〉特養ふじの里

行政や医師会など総勢約40人が参加して、3月16日に大規模な「基幹福祉避難所開設訓練」を実施しました。

午後1時、震度7の地震が発生、ライフラインが止まったと



想定し訓練開始。当施設から参加した職員は20人で、要援護支援班、物資班等4班に分かれて避難者受け入れのためのテントやベッドを実際に組み立てました。

今回、初の試みでリモート



(Teams)を活用した避難者の受け入れをしましたが、実際の震災時に使用できるかの課題も見えました。

実施後の反省会では、職員から「当施設内だけでも訓練の必要がある」「実際に受け入れを体験した方から話を聞きたい」などの意見がありました。

〈済生記者 猪瀬麻美〉

互いに支え合える仲間と 互いに支え合える仲間と 互いに支え合える仲間と 互いに支え合える仲間と 互いに支え合える仲間と

4月30日、当院講堂で「令和6年度 永年勤続表彰式」を行い、対象職員に佐藤雅彦院長から表彰状と記念品が贈られました。

今年の表彰者は、勤続30年9人、勤続20年15人、勤続10年33



人の計57人。謝辞を務めた勤続30年の手術室・北山真澄看護管理師長は「東日本大震災やコロナ禍などの苦境も、職員が一丸となり地域の医療を守ってきた。

ひよこ卒園式 2人が小学生に 施設サルビア

当施設のプレイルームで3月19日に「令和5年度ひよこ卒園式」を行いました。

卒園者は2人で、ご家族や入所者さん、スタッフが集まり、新たな門出をお祝いしました。式では、保育証書の授与や名前入りのキーホルダーとアルバムの記念品贈呈のほか、「サルビア☆キッズ」からの祝いメッセージやご家族からの言葉も。これまでの活動をまとめた動画が流れると、「こんなこともあったね！」か



互いに支え合える大切な仲間と学び、成長ができる環境があったから前に進むことができた」と思いを語りました。

〈済生記者 原 衣里奈〉

わいいね」と皆で思い出しながら懐かしみました。

この春から2人は小学校へ入学します。友だちと一緒にたくさんのお祝いを作っていけますように！

〈横浜市東部病院 済生記者 荒木愛美〉

プラズマ乳酸菌で免疫アップセミナー

〈東京〉 中央病院

5月9日に、キリンホールディングス社による「第1回キリン免疫セミナー」が当院で開催されました。

テーマは「毎日『秒』で免疫カアップ！免疫の司令塔プラズマ乳酸菌」。プラズマ乳酸菌に焦点を当て、私たちの健康と



密接に関係している免疫の重要性を紹介する内容でした。免疫の司令塔を活性化するといわれるプラズマ乳酸菌は、毎日の生活の中で摂取することで免疫力を高めるとして注目されています。参加者25人

て私たちの体を支えるのかについて学びました。この取り組みはキリン社が掲げる、企業が事業を通じて社会的な課題を解決するCSV（共通価値の創造）の一環で、6月12日には第2回セミナーを予定しています。

（済生記者 鈴木香純）

奈良病院

診療報酬改定に危機感を持つ

4月15日、全職種を対象とした診療報酬改定に関する説明会を、医事課が主体となり開催しました。

参加者は30人。医事課長代理である筆者が、新設された保険点数の紹介を軸に「その点数が定められた背景」や「当院の現況」を示し、今回の改定内容が当院にとっていかに厳しいものであるか、危機感を抱いてもらえるように説明しました。

現在は6月1日からスムーズな運用が展開していただけるよう、関係各部署と施設基準要件の確



認や運用についての意見交換を行なっています。

（済生記者 西川崇宣）

〈鳥取〉 境港総合病院 商工会議所ニュース 当院特集ページに反響

境港商工会議所ニュース5月号に当院特集ページが掲載されました。

境港商工会議所ニュースは境港商工会議所が毎月13000部発行する全8ページの広報紙。地元紙の日本海新聞・山陰中央新報に折り込まれ、市内と近隣の一部地域に配布されています。



これまでも当院の情報を掲載していただいております。原稿のやり取りをする中で担当者からの「今度、境港総合病院特集ページを作ってみようか」との提案により実現に至りました。診療を担当している鳥取大学医学部附属病院の医師にもご協力をいただき、眼瞼下垂の治療や腫瘍外来などについての原稿を完成。5月1日の発行日以降「記事を見たよ」とのうれしい反響が続々と届きました。

（済生記者 亀尾美子）

滋賀県病院

救命救急センターが5年連続S評価

当院救命救急センターは厚生労働省が実施した「令和5年救命救急センターの充実段階評

価」で、前年に引き続き4段階評価で最も高いS評価を受けました。今回で5年連続のS評価取得です。昨年は全国304の救命救急センターが対象で、このうちS評価を受けたのは97カ所。滋賀県では当院のみでした。当センターは滋賀県湖南地域

（経営企画課 西澤真由美）



〈埼玉〉 川口看護専門学校 看護の灯を受け継ぐ

4月29日、本校の令和6年度戴帽式が行なわれ、戴帽生26人、参列者91人が参加しました。例年は川口総合文化センターリリア音楽ホールで行なっていますが、今年度は改修工事のため利用できず、川口総合病院の講堂を借りて行ないました。病院で行なうのは初の試みでしたが、「実習病院で行なうということに高めることになった」と学生からの声がありました。

一人ひとりが看護師の象徴であるナースキャップを戴帽し、ナイチンゲール像から看護の灯を受け継ぎました。キャンドルの灯りを持ち会場を歩く姿はとても幻想的で美しいものでした。



戴帽生の胸には1年生が手作りした生花のコサージュが付けられ、戴帽生をよりすてきにしてくれました。

（専任教員 板倉夏美）



**看護の日に
看護のお仕事体験**

〔滋賀〕守山市民病院

看護部主催の「看護の日イベント」を、5月11日に院内で開



催しました。

今回は「看護のお仕事体験」をコンセプトに、手術室見学や超音波検査機器の使用体験、自分でやる血糖測定などの体験コーナーを企画しました。

5年ぶりのイベント開催でしたが、来場者はスタッフの説明や機器の使い方を熱心に聞いてくださり、看護・介護への関心の高さがうかがえました。また、看護師になりたいという小学生や看護学生もいて、各コーナーを意欲的にまわっていました。来場者アンケートでは「勉強になった」「看護師の対応が親切・丁寧でよかった」との声がありました。

（済生記者 中嶋元香）

**奈良県済生会
新入職員77人で合同研修**

奈良県済生会では、4月24日に新規採用職員等研修を開催し、奈良病院・中和病院・御所病院・老健シルバーケアまほろばの新入職員77人が参加しました。研修は、積極的に自己紹介が交わされる和やかな雰囲気の中、炭谷茂理事長からのメッセージ動画視聴でスタート。続いて今



川敦史支部長、奥田善之常務理事の「済生会の理念と役割」と「済生会における仕事の進め方」についての講義があり、済生会の歴史や仕事への姿勢等を学び、理解を深めました。引き続き行なわれたグループワークでは、職種別に分かれ「真の済生会人になるためには」というテーマで、入職にあたっての心持ちについて活発に意見交換が行なわれました。

（済生記者 山岡陽子）

**〔大阪〕健都健康管理センター
放射線技師の朔さん
博士号取得**

当センターの朔多栄子放射線

技師が熊本大学大学院保健学教育部保健学専攻の博士課程を修了し、3月25日、学位を取得しました。

専門は核医学で、博士論文は「深層ニューラルネットワークを用いる脳灌流単一光子放射断層撮影定量法における自動関心領域設定法の開発」

朔さんは「ここに至るまで、何度も壁にぶつかり、挫折し、諦めたことも多くありました。修了までたどり着けたのは、先生、共著者、ゼミの仲間、同僚家族の協力があってこそ。心から感謝しています」と喜びを語りました。

（済生記者 木村公美）



**プロギングでカロリー消費も
地域貢献も！**

熊本病院

ジョギングをしながらゴミを拾う新しいフィットネス、プロギングを楽しむイベント「EARLY SPRING PLOGGING 2024」を3月9日に開催しました。

当イベントは2021年3月に事務職員有志16人で開始。3回目の今回は参加対象を病院職員とその家族に拡大したところ、36人が参加しました。

当日は、走り自慢が集い疾走する「らんらんコース」、会話も楽しみながらゴミ拾いも手を抜かない「てくてくコース」、小さな子どもたちと一緒に地域貢献する「とことこコース」の3コースを設定。4グループに分かれ、早朝8時から2時間をかけて合計で9・4キロの重さのゴミを集めました。

参加者からは「普段あまり会話ができない人とコミュニケーションがとれて新鮮だった」と定期イベント化を期待する声も上がりました。

（保育室 今吉美沙）



た」と定期イベント化を期待する声も上がりました。

（保育室 今吉美沙）

**5月9日は
アイスクリームの日**

5月9日、地元企業の南商事



あふれました。居室でも熱中症対策は必要です。アイスクリームの力で、夏の到来を吹き飛ばしていけることでしょう。

（事務所 夏井理恵）

クラファン目標達成！電動ベッド整備へ

〔広島〕 呉病院

3月12日から挑戦していたクラウドファンディングが、4月30日をもって終了しました。

201人の皆さんからのご支援は総額1371万3000円にのぼり、第一目標（700



万円)・第二目標(1000万円)を大きく上回ることができました。

ご支援いただいた寄付は、患者さんがより良い環境で療養できるよう、電動ベッドの整備に活用します。

(済生記者 上條武志)

〔鳥取〕 境港総合病院

肝炎撲滅を目指し 祖田看護師が講演

4月19日に開催されたアツイ合同会社主催のリモート講演会で、当院・院内肝炎ウイルス対策チーム・祖田亜由美・看護師が演者を務めました。

当院では昨年5月から、肝炎ウイルス陽性者の早期発見と適切な治療につなげる活動を行なっています。当活動は、B型・C型肝炎ウイルス陽性でありながら未受検のため気づかず生活をしている人たちが掘り起こし、陽性者に対して専門医受診を促すというものです。この日は介入方法や介入パターン別の事例などを約15分間で紹介しまし



た。

本講演会の配信地域は西日本エリアと広く、中国地方を中心に西は九州地方まで9県の医療機関32人が視聴しました。

(内科部長 岡野淳二)

〔埼玉〕 川口総合病院

犯人検挙に大きく貢献 警察から感謝状

院内で発生した窃盗事件において、自ら防犯カメラなどを精査して犯人を特定し、犯人検挙に大きく貢献したとして、5月1日、埼玉県川口警察署の石井堅次署長から渉外課の高橋亮支



課長と新井隆史リーダーへ直接感謝状が贈られました。

感謝状を受け、高橋課長は「被害に合った方々が報われたと思うと素直に喜びたい。今後も迅速果断の誠心で邁進したい」、新井リーダーは「櫻井雅彦防犯部長や警備員の協力もあり、犯人の特定に至るまでの材料をそろえることができた。信頼される病院の一助となれるよう今後もしっかり取り組んでいく」と思いを語りました。

(済生記者 原 衣里奈)



〔茨城〕 水戸済生会総合病院
白鳥として 大きく羽ばたけ

昨年度入職した看護師32人の最後の新人研修として、3月25日、1年間の振り返り研修を行いました。

研修では辛かったこと、頑張ったことなどを一人ずつ発表。2年目になる不安もある中、「寄り添う看護をしたい」「同期に支えられた」「指導者さんのようになりたい」と発表する者がほとんどで、未来を見つめた瞳はキラキラ輝き、頬は桜色に染



まっていました。

サブライズで準備した実地指導者からの手紙には皆感涙し、「宝物です」と胸に抱える姿も。互いの頑張りや成長を喜び、同期と分かち合う様子に、教育委員会メンバーも感動の渦に巻き込まれ涙をこらえました。

新人としての最後のお仕事は、ネームホルダーのヒヨコ飾りを取り外し、白鳥(看護師)として大きく羽ばたけました。皆さん、1年間よく頑張りました。

(新人看護師教育担当 藤野礼子)

熊本福祉センター

台湾の障害者施設が来会 利用者の就労現場を視察

4月18日、台湾で障害児者福祉事業を行なう光仁社会福祉基金会内部の管理者8人と翻訳ボランティア1人の総勢9人が当センターを訪れました。

同会の海外施設訪問は初めてのこと。当センターが運営する障害福祉サービス事業の済生会ウイズや済生会ほほえみ、済生会グループホーム事業所といった多様なサービスの提供内容や支援形態などを見てみたいと



いう依頼があり、快諾しました。当日は、小西忠光事務長が事業の概要を説明。その後、実際の就労現場を視察してもらい、昼食には給食を提供しました。

また当日は、テレビ熊本・熊本日日新聞社・くまもと経済の3社から取材を受け、4月21日の熊本日日新聞に掲載されました。

(済生記者 元松順子)



金沢病院での支援活動 一人ひとりに寄り添う

〔福岡〕大牟田病院

済生会災害対策本部からの看護師派遣要請を受け、3月21日から4月18日までの4週間、筆者は金沢病院で支援活動を行いました。

移動初日は、金沢病院に隣接する「いしかわ総合スポーツセンター」に開設された1・5次



右から2番目が徳田看護師

避難所を視察。発災から2カ月以上が経過してもなお多くの被災者さんが生活しており、被害の大きさを痛感しました。

同院では病棟での看護ケアを中心に、一人ひとりの患者さんに寄り添い、コミュニケーションを取りながら関わることを意識して支援。普段は外来で慌ただしく勤務している筆者にとって、患者さん一人ひとりと時間をかけて向き合うことの大切さを再確認するとともに、被災地・被災者の方々の心痛を考え胸が熱くなったことが思い出されます。

（外来看護師 徳田 愛）

〔栃木〕宇都宮病院 自ら志願、石川・金沢へ 1カ月透析業務を支援

済生会災害対策本部からの要請を受け、3月18日から4月21日までの約1カ月間、当院透析室の荒井ゆり看護師が支援活動のため金沢病院へ赴きました。

同院では、被災し透析が実施できなくなった市立輪島病院の透析患者15人を受け入れていきます。避難所から透析に通うなど一変した生活に不安を抱えてい



左から2番目が荒井看護師

る患者さんも多く、荒井さんは患者さんに寄り添い、可能な限り話を耳を傾けるよう心がけたそうです。

学生時代の友人が石川で暮らしていることもあり、被災地のために何か自分にできることはないかと考え自ら志願したという荒井さん。「現地スタッフのサポートのおかげで業務を遂行することができた。スタッフや患者さんの話を聞き、災害時の対応について改めるきっかけとなった」と振り返りました。

（済生記者 川原彩花）

DMAT出動報告会 災害支援活動を語る

〔神奈川〕横浜市東部病院

当院多目的ホールで3月29日、「能登半島地震 DMAT 出動報告会」を行いました。

報告者は、救急科の妹尾聡美医師、田中飛翔医師のほか



ER看護師など計6人で、会場には現地での災害支援活動内容を聞くために職員65人が集まりました。

報告内容はDMATの説明に始まり、現地の活動で大変だ

催し、59人が参加しました。

当センターは厚生労働省、大阪府看護協会、済生会災害対策本部の要請に応じ、1月12日から4月4日までの間に珠洲市の病院（病棟）、金沢市の避難所や病院（病棟）に合計7人の看護師を派遣しました。

報告会では、一人ひとりが参加した理由や現地の状況、支援内容、自身が体験したことや勉強になったこと、自施設の問題点や取り入れたほうがよいことなどを発表。今後の災害支援や自施設の防災についても改めて考える機会になりました。

（済生記者 鈴木亜希乃）



DMAT隊員に 厚労省から感謝状

岡山済生会総合病院

（済生記者 荒木愛美）

つたことや工夫したことなど。医療スタッフやロジスティクススタッフそれぞれの立場からの気付きなどについても話があり、参加者も興味深く聞いていました。

最後に三角隆彦院長が「過去にもDMAT派遣は行なわれてきたが、回を追うごとに洗練されてきている。現地での工夫や発想力をぜひ日々の診療に生かしてほしい」と話し、今回の活動に携わったスタッフを労いました。

能登半島地震で現地に派遣され救助活動を行なった当院DMAT隊員に、4月30日、厚生労働省から感謝状が授与されました。



月18日から21日まで珠洲市の健康増進センターで、野崎哲診療部長・岡部卓史事務員・渡邊一平事務員が健康増進センター長のサポートや地域住民への支援活動の引き継ぎなどを行ないました。

DMATの活動以外にも、当院では済生会災害対策本部からの要請を受け、看護師3人が金沢病院で支援ナースとして災害支援活動に従事しました。

（済生記者 高畑貴子）

被災地支援に協力した 看護師の体験や学びを共有

〔大阪〕中津医療福祉センター

災害支援看護師派遣報告会を4月24日、中津病院大講堂で開





〔茨城〕水戸済生会総合病院
「皆元気に大きくなあれ！」

5月5日はこどもの日。院内に併設された「なでしこ保育園」の0〜2歳児の子どもたち24人は、絵の具やスタンプを使ってきれいなウロコのこいのぼりを作り、玄関に飾りました。

今後は見守りシステムや介護記録との連携を図り、介護のDX化を促進させて利用者の安全確保・提供するケアの質向上につなげていきます。

（茨城）水戸済生会総合病院

銀鮭を触ってドキドキ！
境港ならではの食育

〈鳥取〉境港総合病院



子どもたちはまず紙芝居で、卵から育てられる様子、水揚げ、皆の食卓に並ぶまでの流れを学びました。その後、ドキドキしながら実際に銀鮭を触ったり、興味津々で魚をさばく様子を見つめたり、勉強会を満喫しました。子どもたちが触るだけ触った銀鮭は、職員がおいしくいただきました。

（済生記者 亀尾美子）

再来受付機・
自動精算機導入！

長崎病院

約半年の準備期間を経て、3月12日から「再来受付機」、25日から「自動精算機」の稼働を開始しました。「なんねこれ？」「自分でできるかな？」——再来受付機を見た患者さんの大半は戸惑いの声をあげていましたが、スタッフの支援もあり徐々に慣れつつあります。特に自動精算機に関しては、スタッフより患者さんの方が慣れていく様子です。設置直後はいくつかのトラブルが発生しましたが、その後は



臨床研修医修了式
それぞれの目指す道へ

〈神奈川〉横浜市東部病院

「こいのぼりを願って皆で「こいのぼり」を大きな声で歌いました。保護者の皆さんも送迎時に作ったこいのぼりを見て喜んでくれました。昔から繰り返されてきた何気ない親子の小さな触れ合いに、今年も幸せな気持ちになりました。」

（なでしこ保育園 園長 小川律子）

当院初期臨床研修医室で、3月27日、臨床研修医修了式を行いました。

三角隆彦院長からの祝辞の後、当院採用研修医10人・たすきがけ研修医4人に、修了証と記念品の白衣が授与されました。

研修を終えた10人の進路は外科5人、救急科2人、内科・整形外科・泌尿器科に1人ずつ、勤務先は県内外の大学附属病院、市中病院とばらばらです。

当院には2人が残り、引き続き専攻医として研鑽を積むこととなりました。

（初期臨床研修医室 相澤康恵）



助成金でナースコール80台

公益財団法人合人社財団の令和5年度助成金募集の選考を通



過し、3月25日、交付された助成金により80台のナースコールを更新しました。今回整備したナースコールはLED対応型。現在のPHSからスマートフォンへの切り替えを行なえる仕様となっています。

大きな問題もなく稼働しています。会計案内を名前ではなく番号表示で行なうことについても、個人情報保護の観点で安堵のお言葉をいただきました。

（医事課 村山 育）

〈広島〉老健はまな荘

新潟病院

地元FMラジオ出演
最終回は多職種チームで

当院職員が1月から隔月で出演したFM-NHIGATA「医療の広場 RADIO」病院Special」の最終回が、5月19日に放送されました。今回のテーマは



「チーム医療」。緩和ケア認定看護師の平澤和美副看護師長、医療福祉相談室医療ソーシャルワーカーの月岡多恵子職員、管理栄養士の治田麻理子栄養科長が出演しました。
収録は和気あいあいとした雰

がまた一つ増え、患者さんの病態、解剖に合った治療ができるようになりました。
(企画広報室 米須咲紀)



囲気で進められ、それぞれの業務内容や多職種での関わりについて紹介。患者さんからの医療に対する要望が多様化する中、多職種間の相談や情報共有を密に行ない互いに「頼れる存在」として治療にあたっているというお話もありました。
ラジオ番組組への連続出演は初めての試みでしたが、これまでお伝えできなかった内容を発信することができました。
(総務課 吉川未織)

岡山済生会総合病院

仁熊新院長が就任

4月23日、ホテルグランヴィア岡山で「岡山済生会総合病院



院長退任・新院長就任式」を執り行ないました。
当日は病院幹部や関係者92人が出席。山本和秀支部長の挨拶の後、藤岡真一副院長が塩出純二前院長に感謝の言葉を述べ、塩出前院長が4年間を振り返り退任の挨拶を行ないました。
新任の仁熊健文院長は、済生会に赴任することになった経緯と今後に向けての抱負を述べました。その後、今谷潤也副院長から門出を祝う挨拶があり、就任式は終了しました。
懇親会は、大澤俊哉外来センター病院長の乾杯により開会。和やかな雰囲気の中、新旧両院長が各テーブルを回り、多くの出席者と言葉を交わしました。
(総務次長 川上健二)



新治療デバイス PASCAL導入
九州で2番目

熊本病院

当院循環器内科では、4月、器質性僧帽弁閉鎖不全症に対する治療デバイスとして、新たに「PASCAL Precision システム」を導入しました。
本製品は閉鎖不全となった僧帽弁の前尖と後尖を把持し、弁尖を近づけるように修復することにより逆流を低減させます。昨年12月に保険償還されたばかりの新しいデバイスで、九州では2番目の導入となりました。

4月16日に行なった初症例では、オーストラリアから来院したプロクター（指導医）立ち会いのもと手技を行ない、大きなトラブルなく終了。患者さんは術後3日目に独歩で退院されました。
これにより、当院の弁膜症に対するカテーテル治療の選択肢



長崎病院

済生会子ども鳴滝塾
本部取材を受ける

4月に開塾した「済生会子ども鳴滝塾」について、5月10・11日の2日間、済生会本部の取材を受けました。
1日目は、塾長（支部長）・長崎病院院長（支部常務理事）・塾管理者（支部事務局局長）・プロジェクトリーダー（地域医療連携センターセンター長）・経営企画室長等が、本事業の立ち上げのきっかけやこれまでの取り組みなどを説明しました。
2日目は、実際に子ども塾の学習の様子を見学。また、長崎大学附属図書館館長の浜田久之医師（支部理事）や、講師を務

茨木病院の守護神、
花田守さんに瑞宝双光章

5月8日、京都府公民館で行なわれた春の叙勲伝達式で、当院の職員、花田守さんが瑞宝双光章を受賞しました。
瑞宝章は日本の勲章の一つで、公務などに長年にわたり従事し、



成績を挙げた人に授与される勲章です。
花田さんは、京都府警察で長年地域住民の安心・安全のために尽力してきました。現在は警察官としての経験を生かし、当院の患者さん・職員の安心・安全を守るクレーム対応に従事しています。
(済生記者 中村友香)



河野太祐

新たな学びの日がスタート

〈神奈川〉重症心身障害児(者)施設サルビア

当施設のプレイルームで、4月9日、「北綱島特別支援学校サルビア分教室入学式」を行いました。

今年度の入学者は小学部2人、中学部2人、高等部1人の計5人。参加者の拍手で迎えられた新入生は、一人ずつ名前を読み上げられ、校長から「少しずつ慣れていきましょう。そして、新たな学びの日々を過ごしていきますよ」と激励の言葉をいただきました。

校歌と愛唱歌が流れると、参加していた在生とスタッフが一緒に歌う和やかな光景も見られました。

(横浜市東部病院 済生記者 荒木愛美)



手指消毒の重要性を再認識

〈東京〉中央病院

医療現場での感染対策の強化を目的とした「手指消毒・スタンダードプリコーション研修」を3月8日に開催し、ナースिंगアシスタント43人が参加しました。

まずは、感染制御センター・感染管理認定看護師の山根絵里師長が、手指消毒の重要性やスタンダードプリコーション(標準予防策)について講義。参加者は日々の業務での予防の重要性を再認識しました。



その後は、手洗いや手指消毒を行ない、洗い残しが確認できるライトを使用して実際の洗い残し箇所を確認。ほかにも、N95マスクの正しい着脱方法を実践しました。

(済生記者 鈴木香純)

〈愛媛〉今治老健希望の園 継ぎ獅子にハラハラドキドキ

5月11日、300年の歴史を持つ今治地方の郷土芸能で愛媛県の無形民俗文化財に指定されている「継ぎ獅子」の披露(種口獅子舞保存会)が当園で行なわれ、利用者さんら100人が観覧しました。

「トン、トトン」という独特の軽快な太鼓が鳴り響く中、天の神様に少しでも近づき稲が天高く育つことを願う「三継ぎ」と



らに「四継ぎ」と、人の肩の人が次々と立ち上がります。一番上の獅子児役の子どもが獅子頭をかぶって勇壮に舞う姿に、皆さん一様に感動した様子でした。

「あんな小さい子が上手にすねね。近くで見てもドキドキした」「四継ぎは樋口やねえ」など、郷土芸能のすばらしさを再認識していました。

なお観覧後の入所フロアへの帰路は、洪水等に備えた垂直避難訓練に位置付けることとして、迅速、安全に移動することができました。

(済生記者 濱本佳代)

食品スーパーで看護イベント

〈山口〉豊浦病院

5月12日の看護の日を含む週の日曜から土曜は「看護週間」です。関連イベントとして5月11日、ゆめマート川棚店で「まちの保健室」を開催しました。

当日は看護師による健康相談、血圧測定や体脂肪測定、子ども向けの企画として手形スタンプ、白衣写真撮影、お菓子や風船の配布等を実施。ゆめマートでの開催は久しぶりでしたが、約100人の地域の皆さんが立ち寄ってくれました。

また看護週間の恒例イベント



〈山形〉はやぶさ保育園 空高く泳げ! こいのぼり

「子どもたちがこいのように元気で健康に過ごしていきますよ」



として、ポケットティッシュを当院正面玄関で外来患者さんへお渡しし、病棟では患者さんへボックスティッシュを配布。通路には当院看護部の取り組みを掲示し、多くの外来患者さんやお見舞いの方に見ていただきました。

(済生記者 西田千鶴)

完成したこいのぼりは保護者に見てもらいます。自分が頑張ったところを一生懸命話しながらおうちの人に教える姿も。楽しく学びながら行事に触れる時間となりました。

(済生記者 齋藤里奈)

topics

ましたと頬張り、おいしそうに食べていました。
30個以上のケーキがあつという間に終わってしまうくらい大好評。利用者さんたちは食べ終わった後に「次の喫茶はいつやるの？」と次回まで待ちきれない様子でした。

(済生記者 奥川詩織)



「キがいい！」と楽しみにしているようでした。
当日朝、「ケーキは何を注文する予定ですか？」と尋ねると「私、イチゴのケーキにする！」と笑顔で話していた利用者さん。ケーキが前に置かれると待つて

新人教育研修で基礎を学ぶ

福井県済生会病院

4月11日、新人看護師26人ほか新人職員80人を対象に、医療安全対策、看護実践基礎、感染管理に関する新人教育研修を行いました。

医療安全対策では、清水浩美ゼネラルリスクマネージャーが「病院で決められている具体的な医療安全対策について」と題して講義を行ない、看護実践研修では血糖測定の実技を行ないました。

午後からは細田清美感染管理認定看護師が、標準予防策、職



広報誌「なでしこ」を一新して再開

〈福岡〉大牟田病院

平成31年3月から休刊していた院内広報誌「なでしこ」を院外向けの広報誌として一新し、4月から再開しました。

昨年度から院内外活動が徐々に再開され、他施設間交流や研修会での人的交流も盛んになりつつあります。そうした中、広報活動強化の一環として、近隣病院との連携強化や地域への情報発信を目的に発刊することになりました。

年4回の発刊を予定。初刊号は稲吉康治病院長のあいさつ、特集として竹下修平整形外科医師の紹介、TOPICS記事(救急車納車式典、入社式、おむた産業フェスタ出展報告)など、当院の近況を紹介する内容に。

秋には初となる済生会フェアも企画しており、準備室が動き始めています。元気のある大牟田市、大牟田病院の報告ができ

るよう万全の準備で臨みます。

(済生記者 松岡 健)

病院の「今」が分かる！公式Instagram開始

〈栃木〉宇都宮病院

当院公式Instagramを5月1日に開設しました。

Instagramを運用するため、各部署の協力のもと4月にSNS広報委員会を立ち上げました。「済生会宇都宮病院に魅力を感じる、他人へ教えたいなるアカウント」をコンセプトに、医療・看護・薬・レシピなどのお役立ち情報やイベント情報、各部署で働く職員の日常などを投稿予定です。

当院創立記念日の5月30日から投稿を開始予定。本格始動前にもかわら



SAISEIKI_UTSUNOMIYA



ず、多くの方からフォローをいただいています。ぜひ、QRコードから当院の「今」をのぞいてみてください！皆さんからの「いいね！」をお待ちしています。

(済生記者 川原彩花)

静岡医療福祉センター 成人部 待ってました、ケーキの日

今年度最初の行事として、4月17日に「喫茶あおば」を催し、32人のお客さんを迎えました。数日前にケーキのメニュー表



を廊下に張り出したところ、それを見た利用者さんたちは「何食べようかな?」「私はこのケ

日、境港市議会場で市会議員の質問に答える形で新病院の基本構想・基本計画について説明を行ないました。

主な質問内容は、収益改善の具体的取り組み、救急医療の拡充策、がん検診の新規導入、常勤医の確保、整形外科医の増員などについて。矢継ぎ早に繰り出される質問に、院長は丁寧に答え、意気込みを示しました。

そして、資金調達が大きな課題であるという共通認識を踏まえ、市議会側に改めて支援を要請しました。

(済生記者 亀尾美子)



新病院の基本構想・計画 院長が議会で説明

〈鳥取〉境港総合病院

業感染対策(ワクチン接種、針刺防止対策等)の講義を行ない、手洗い方法、個人防護具の着脱などの実践を行ないました。

(済生記者 田中一弥)

佐々木祐一郎院長は、4月5

〈山口〉 豊浦病院
看護師特定行為研修
第2期スタート

看護師特定行為研修第2期生の開講式を、4月2日に当院中会議室で行ないました。
中司謙二院長が受講生へ激励の言葉を述べ、受講生を代表して林勝利さんが「共に助け合い、励まし合って、済生会職員としての本分を全うすることを決意します」と誓いました。
昨年度から看護師特定行為研



修指定機関として研修を実施していますが、今年度から定員数を3人から10人に変更。新たに呼吸器（長期呼吸療法）関連と動脈血液ガス分析関連の2区分を追加しました。

第2期生7人の受講生が、これから1年間切磋琢磨しながら専門的知識と実践能力を養い、質の高い医療が提供できる人材になれるよう研修を進めていきます。
(経営企画室長 日高滋規)

東神奈川リハビリテーション病院
学会で7人発表
臨床・研究成果を発信

3月9・10日の2日間、帝京平成大学の池袋キャンパスで開催された「第9回日本臨床作業療法学会学術大会」に当院セラピスト部から7人の作業療法士が参加し、口述発表とポスター発表を行ないました。
発表内容は、当院に導入されているロボット訓練機器を使った介入報告や、家族支援、高次脳機能障害例に対する介入の工夫など。各発表では多くの質問をいただき、日々の臨床実践の



共有と活発な意見交換を経験することができました。
本会を通して、日々の臨床や研究の成果を発信することでの学術的側面からの社会貢献の重要性を再認識。当院でも引き続き学術的な発信に力を入れていくことを改めて確認しました。
(セラピスト部 作業療法士 長田 典)

〈神奈川〉 横浜市東部病院
看護師向け研修合同入講式

4月8日、看護師特定行為研修8期生11人と、小児ブライマリアケア認定看護師教育課程4期生11人の合同入講式を、当院で



行ないました。
研修責任者の渡邊輝子看護部長は「目まぐるしい実践から少し立ち止まり、大いに楽しく学んでほしい」、三角隆彦院長は「広い視野を持ってこれから1年間学び、得た学びを有効活用して患者さんに還元してほし



い」、そして神奈川県済生会の赤星透支部長は「社会も患者さんも皆さんの存在を求めている。勉学に励み、それぞれの場で活躍してほしい」とエールを送りました。
これを受け、入講生代表の看護師特定行為研修8期生・田中渚さんは「自身の看護観の上に、より理論的な知識を身に付けていきたい」と新たな日々への抱負を語りました。
(済生記者 荒木愛美)

〈大阪〉 吹田病院
地域イベントで「かん」と「まち」をつなぐ

5月12日、大阪学院大学高等学校スポーツフィールドでの地域イベント「第3回まるっと。マルシェ」に、当院職員18人が参加しました。
総務課とホームケア支援課が

協働で参加企画を始動。どうすれば地域の皆さんに当院を身近に感じてもらえるかを考え、舞台への出演と出店を決めました。
当日は、臨床検査科職員による体成分分析装置 InBodyでの測定と事務職員によるカラーセラピーを出店し、計72人の参

加がありました。また、舞台への出演は大トリで、管楽器隊・ベース・パーカッション隊・ダンス隊総勢12人で「となりのトトロ」の主題歌「さんぽ」を演奏。会場全体を盛り上げました。
(ホームケア支援課主任 加藤尚子)

〈神奈川〉重症心身障害児(者)施設サルビア
好きなことを大事に
書といけばなのコラボ展示

当施設の入所者さんによる書作品と、いけばな草月流の有志「F.M.U Flower Meet You」(あなたに寄り添う花々)の皆さんによる作品のコラボ展示が、5月12日から横浜市東部病院3階多目的ホール前ギャラリーで開催されています。
書作品で書かれているのは、入所者さんの好きなアーティストの作品にちなんだ言葉。大きな紙には入所者さんが筆を思いのままに走らせた自由な線が踊っています。そしてF.M.Uの皆さんによる異素材や竹ひご、和紙を使った立体的な作品が、書作品を引き立てるように飾ら



れています。
介護福祉士の増田勇紀さんは「複数のスタッフも一緒に書き、入所者さんの好きなことを大事にして、制作を進めました」とコメント。通りかかる方々も展示を興味深気に見ていました。
(横浜市東部病院 済生記者 荒木愛美)

臨床工学科が機器管理システムを作成

機器の日常点検記録や所在管理、修理依頼などを一括管理できる当院独自の機器管理システムを、昨年4月、臨床工学科が作成しました。

これにより、日常点検はすべて紙記録からネットワークで共有されたパソコンでの管理となり、さらに入力にバーコードを



設備名	場所	点検日	点検者	状態	備注
心臓超音波診断装置	救急科	2023/04/10	山本将太	正常	
心臓超音波診断装置	救急科	2023/04/10	山本将太	正常	
心臓超音波診断装置	救急科	2023/04/10	山本将太	正常	
心臓超音波診断装置	救急科	2023/04/10	山本将太	正常	
心臓超音波診断装置	救急科	2023/04/10	山本将太	正常	
心臓超音波診断装置	救急科	2023/04/10	山本将太	正常	
心臓超音波診断装置	救急科	2023/04/10	山本将太	正常	
心臓超音波診断装置	救急科	2023/04/10	山本将太	正常	
心臓超音波診断装置	救急科	2023/04/10	山本将太	正常	
心臓超音波診断装置	救急科	2023/04/10	山本将太	正常	

活用することで大幅な労力削減を実現しました。

また、当初は日常点検だけでしたが徐々に機能を拡大していき、導入から1年を経た現在では機器の所在管理、他部署からの修理依頼や機器の空き状況確認、勉強会依頼などもできるようになった。その結果、病院全体で業務負担を減らすことができた。

本システムの最大のメリットは、使用者の要望に対してすぐに対応できること。今後も当院の運用に合わせて進化させていく予定です。

(広報委員会 山本将太)

岡山済生会総合病院

新採用者104人初のウェルカム・パーティー

4月19日、当院さいゆうホールに新採用者104人を迎え、「ウェルカム・パーティー」を開催しました。当院の教育委員会が立案・企画したもので、コロナ禍以前にやっていた1泊2日の新人研修の代わりです。



山本和秀支部長の挨拶に始まり、和やかな雰囲気の中、ケータリングを楽しみながら多職種

間での交流を深めました。岡山県済生会に関連したタイズ大会では、最後まで勝ち抜いた新採用者1人に景品が贈られました。

パーティーの最後には仁熊健文病院長の挨拶があり、新採用者は「まずは目の前の仕事に一杯、取り組んでいきたいと改めて思いました」と語りました。

(済生記者 高畑貴子)

〈新潟〉三条病院

カラー一新、気分も一新！新ユニホームに

クラークとコメディカル職員のユニホームをリニューアルし、4月1日から運用しています。新たな試みとして、実際に着用する職員の意見を反映させるため、希望者による選定チームを立ち上げて臨みました。

その結果、クラークはピンクの上衣に白のズボンで柔らかい雰囲気。コメディカルは紺色を基調とし、男性は2色（紺と青）のズボンから、女性は2色（ピンクと水色）のラインの入った上着から、その日の気分に合わせて着用しています。職員は「ユニホームが変わり



「看護の日」記念イベント5年ぶりに対面開催

福井県済生会病院

「看護の日」にちなんだ記念イベントを5月9日に開催し、100人以上が参加しました。今年には能登半島地震の発生もあり、市民の防災や災害時の健康維持への関心を高めることを目的に「災害に備える」をテーマに設定。当日は当院正面玄関ホールで、HCU看護師

「北上市新型コロナウイルスワクチン接種に係る感謝状贈呈式」が、4月24日に北上市保健・子育て支援複合施設ホクkoで行なわれ、当院をはじめ本事業に貢献した12の医療機関や関係団体に改めて感謝の意が伝えられました。

〈岩手〉北上済生会病院

コロナワクチン接種事業に貢献した団体に感謝状

八重樫浩文市長は「オール北上の体制で未曾有のウイルスのワクチン接種という非常に重要な業務をやり切ることができた。今回培った連携協力体制を『北上モデル』としてしっかり構築していきたい」と挨拶し、感謝状を手渡しました。

受賞者を代表し、北上医師会の根本薫顧問は「新たな問題・課題が次々と出てきた中で事業



を進められたのは、皆さんの努力のたまもの。互いに感謝し合える太い絆ができ、今後事業を進めていく上で大きな財産になる」と述べました。

(済生記者 掛川千恵子)

展示も。参加した患者さんからは「災害はいつ起こるか分からない、やはり準備しておかないべし」とのコメントもあり、災害への備えを考えるよい機会となりました。

(総務企画課 山村健太)

〔和歌山 老健ライフケア有田 ぼかぼか陽気で春を満喫〕

桜が満開になり、4月4日、通所リハビリの利用者さんたち32人と当施設の敷地内でお花見をしました。



数日前まで雨が続いていたため、花が散ってしまわない心配でしたが、当日はぼかぼかとした春の陽気に包まれ、無事にお花見を執行することができました。外に出て、春風を感じながら

〔山形 養護(盲)老人ホーム 山静寿 花見ドライブで心身をリフレッシュ〕

満開の桜の木の前に会話に花を咲かせるお花見は自然と利用者さんとスタッフ皆を笑顔にしてくれました。マスクなしの写真撮影ができるのもうれしいことです。わずかな時間でしたが、穏やかな日差しの中、春の訪れを感じるひとときとなりました。(済生記者 南野奈緒)



桜の開花に合わせて外出し気分転換をしてみよう、4月中頃の6日間、4〜5人のグループに分けて入所者さん33人を花見ドライブにお連れしました。

各日、山形市の桜の名所・馬見ヶ崎さくらライオンや、山辺町の観光スポット・玉虫沼の周辺をドライブ。車内では普段あまり交流のない人同士の会話もあり、楽しんでいたただけの様子でした。降車し公園を散策した際は、枝や花びらに触れることで桜を満喫。視覚障害の



載々

コンフリクトマネジメントが組織の成長を促す

〔神奈川県〕横浜市南部病院 総合患者支援センター 嶋中センター長補佐

2024年5月1日に発行された「がん看護」第29巻第3号(奇数月発行・南江堂)に、当院総合患者支援センター・嶋中ますみセンター長補佐の「コンフリクトマネジメント」に関する記事が掲載された。

高度化・複雑化するがん医療ではチームによる診療が不可欠だが、各職種間での意見や価値観の相違から対立(コンフリクト)が生じることがある。各医療者は、患者のためにという点においては共通の目標を持つていて、職種ごとの専門

人にも楽しんでいただけるよう、職員は様子を伝え、情報提供に努めました。皆さんからは「外に出るだけ

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

性から、他職種の意見・価値観に対しては関心が向きにくくなる。コンフリクトは起こりうるものとして、協調的アプローチ・対話によって、医療チームはより成熟する可能性がある。コンフリクトをマネジメントすることで組織の活性化につながる」と論じている。(済生記者 小澤郁丈)

保護者に知っておいてほしい「精索捻転症」

〔鹿児島〕川内病院 泌尿器科・小児泌尿器科 井手迫主任部長

「南日本新聞」2024年4月26日号の「あんしん救急箱」に、当院泌尿器科・小児泌尿器科の井手迫彦主任部長が「精索捻転症」をテーマに寄稿した。

急な陰嚢痛を引き起こす病気を総じて急性陰嚢症と呼ぶが、この中でも緊急手術が必要となる精索捻転症は最も注意すべき疾患である。精巣を温存するためには、発症から6時



間以内の手術が推奨されるものの、受診の遅れが目立つという。井手迫主任部長は「精索捻転症は思春期の男子には誰にでも起こる可能性がある。最初に腹痛を感じることもあるの

用」に、当院の小林阿由美看護部長が「AIを活用した看護支援システムの導入が看護業務で果たす役割」を寄稿した。看護師の人員不足解消と従来の看護業務の大幅な効率化が課題として挙げられていた当院では、看護業務の中でも特に費やされる時間が非常に多いという、看護記録作成業務の効率化を目指し、音声記録システムを導入した。それにより、看護記録業務の煩雑さを軽減し、看護師の労働時間の短縮や感染症対策に有効であることが実証された。

一方、運用面やシステム面の課題も挙げられているため、運用の最適化やメーカーとの協力によるシステム改善等の活動を継続しながら、看護師の負担や労働時間を短縮する取り組みを今後も行なっていく。(済生記者 川原彩花)

AI活用で看護師の負担軽減を実証 〔栃木〕宇都宮病院 小林看護部長 ・手塚看護師 (医療情報室) 月刊「新医療」2024年5月号 (エム・イー振興協会)の総特集「業務負担軽減視点からのIT最適活



大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください。

思いやりの芽吹き

「中庭をもっと花いっぱいには、訪れた患者さんたちが癒やされますよ」



当時、奈良病院の患者支援センターに来ていたAさんがそんな提案とともに、花がほとんどなかった中庭に季節ごとに咲く花をと、中庭の設計図まで書いてくれました。あれから1年。

人生の最終段階で当院に入院したAさんが昨年10月30日にご家族・病院職員とともに植えたチューリップが今、咲き始め、旅立ったAさんのことを皆が思い出しています。入院中にお花の話をするとAさんは、とてもにやかな表情でした。Aさん、どこかで中庭を見ていただけましたか？

Aさんの優しさや、携わった皆の思いで彩られる中庭。患者さんの癒やしとなり、さまざまな人ととの

つながりをつくるための宝物だと思いい、大切にしていきたいです。

(奈良病院 患者支援コーナー)

古川優子

★Aさんと皆さんの思いやりが咲かせたチューリップ、凛と美しいですね。奈良病院のパワースポット！
(メディカル・リーフ 富谷咲希)

桜吹雪舞う大茶会！

岡山・憩いの丘デイサービスセンターの敷地内の花木は、四季折々に私たちの目を惹かせてくれます。



りついで聞いたものです。そんな思い出もあってか、いつからか「のど自慢に挑戦したい」という願望が芽生え、50歳頃から挑戦。しかしなかなか予選の壁が破れず……今回は「気合い」を選曲理由に込めて応募しました。

「65歳から柔道を習い始め、70歳で黒帯。男子はいつまでも気分は15歳の中学生。当時流行っていた『村田英雄の柔道一代』を選曲しました」
予選のステージでは柔道着に下駄姿で力いっぱい熱唱……。すると数日後、ついに予選通過の連絡が！

本番では下駄を脱ぎ、裸足で臨みましたが、結果、鐘は二つでしたが、放送後にはあちこちで声をかけてもらいました。
(島根・江津総合病院 名誉院長 堀江 裕)

★何事も気持ち次第。「元気があれば何でもできる！」ということですね。あっ!?これはプロレスラーの言葉でしたね……
(本部広報課 河内淳史)

電動車椅子サッカー大会 ボランティア体験

4月20・21日の2日間にわたって開催された「横浜F・マリノスカップ 第19回電動車椅子サッカー大会」。東神奈川リハビリテーション病院がボランティアで協力しており、



出しお茶会を開催。ベンチやテーブルが設置された藤棚の下、輪になって「忠義桜」と「さくらさくら」を合唱し、「さくらと抹茶のロールケーキ」を皆でいただきました。

春やお花見の思い出話にも花が咲き、「妻を怒らせて、娘たちに巻きずしを作ってたんだ」「昔は巻きずしなんかを持って『山上がり』をしようたよ」と、懐かしそうに語り合う皆さん。普段あまり笑わない利用者さんも自然とおしゃべりに！

外気浴も気持ちよく、春の日差しを浴びてビタミンDも生成できたのではないだろうか(少し日焼けも)。皆さんのたくさんの笑顔に、私たちが笑顔が弾けました。また来年も皆でお花見をしましょう！
(岡山・憩いの丘デイサービス センター 副主任 矢尾みずほ)

★きれいな桜吹雪とおいしいお菓子



私もスタッフの一員として運営のサポートをしました。

電動車椅子サッカーは名前の通り、電動車椅子でボールを押し合い、ゴールを狙うスポーツです。今回注目したのは、レーススタート前に一斉に選手の電動車椅子を調整する「ピットコーナー」。試合前の慌ただしさはまるでF1レースのピットインのよう！

電動車椅子の体験会にも参加させてもらい、実際にドリブルとシュートの操作は非常に緻密で難しく、選手の皆さんの巧みさを実感しました。
(神奈川県病院 済生記者 小山友輝)

★電動車椅子を勢よく回転するようにボールを放つ姿は格好良く、YouTubeをフルで見ました！
(本部広報課 杉山菜央)

で、笑顔の花が満開に咲き誇っていますね。私もお呼ばれしたかったです。(口福につぼん筆者 吉井省一)

書で気持ち伝わる2人展

2月27日〜3月6日、神奈川・横浜市六浦地域ケアプラザで書の展示「桜の会 2人展」を行いました。自由にかつエネルギーッシュに筆を走らせた一枚一枚の作品は、見る人に元気と勇気を与えてくれます。



作者は地域の障害者グループホームに住むKさんとOさん。二人は福祉作業所に通う傍ら、月1回の習字に熱心に取り組んでいます。2月上旬の「いきいきセンター金沢」での二人の作品の展示を見て心から感動し、ぜひ当プラザでも！とお願ひして今回の展示が実現しました。

魅惑の『下出さくらワールド』

福井・特養聖和園の職員、下出さくらさんの絵画作品25点を、4月下旬から5月上旬にかけて当園ホールに展示しました。



数年前までは一切絵を描いたこと



歌を人生の友として
私の父は奥出雲地方の村長で、小学生時分から父に宴会の手伝いをさせられたり、皆の前で歌わされたりしていました。
昭和30年代、NHKの「のど自慢」が一番の人気番組で、ラジオにかじ

★「がんばる」の4文字に込められた思いの丈を想像し、目の奥が熱くなりました。玄関に飾りたい……！
(メディカル・リーフ 富谷咲希)

来場した作者の二人からは「飾ってくれて本当にありがとう」と感謝の言葉が。「こちらこそ本当にありがとう」が伝わります。Aさんは、とてもにやかな表情でした。Aさん、どこかで中庭を見ていただけましたか？

がなかったという下出さん。たまたま入院をしたときにやることがなく、「絵でも描いてみようかな」と思っていたのが始まりだとか。

独特のタッチで見る者を思わず引きつけてしまう下出さんの作品は、その不思議な魅力により数々の賞を受賞。下絵などはなく、頭にまず浮かぶ「こういうものを描きたい」というイメージを、心を込めて再現しているのだそうです。

主なテーマは生まれ故郷フイリビンの風景、嫁いだ先の大野市和泉村の景色、そして「聖和園での介護の世界」。ゴールデンウィークには面会に来たたくさんの入居者さんのご家族にも見ていただきました。今回の展覧会は秋を予定しています！

(福井・特養聖和園)

済生記者 野尻 宗

★日常で出会う人々への愛情も伝わってくる、素敵な作品たち。ぜひ実物で見てみたい！

(メディカル・リーフ 坂本陽子)

心温まる贈り物にほっこり

大分県地域生活定着支援センターでは、受刑者の方の刑務所出所後の生活を見据えた支援をしています。

昨年の冬、支援対象者のAさんが大分刑務所を出所しました。Aさんは高齢の男性で、趣味はビーズ作



出所前の面談では「出所して早く作りたい。出来上がったら皆さんに送りたい」と話していました。

そして出所からしばらく経ったある日、Aさんから当センターにすてきな贈り物が届いたのです。それは細かなビーズで描かれた、とても緻密な作品でした。モチーフとなっているキツネ・おたふく・ひよっとこの表情も愛らしく、Aさんの温かい気持ち伝わってきました。

当センターが支援する大分刑務所では、受刑者の方の多くが出所後に県外で生活します。そのため出所後の生活に関わることはあまりないのですが、心温まる贈り物をいただき、とてもほっこりしました。

(大分県地域生活定着支援センター 相談員 深川恵美)

★描かれた楽しい祭りのシーンは、

はつきり話す」など、具体的な意見がたくさん出ました。

患者さんの気持ちに寄り添う一助になったのではないだろうか。今回の学びを業務に生かしていきたい。活躍を期待しています。

(大分・日田病院 看護部 穴井明子)

★想像することも大切ですが、実際に体験するとより一層気付きがありますよね。今後のご活躍を応援しています！

(本部広報課 杉山菜央)



懐かしのこいのぼり

5月が近くなると、五月人形が静岡・特養小鹿なでしこ苑の玄関に飾られます。

ある入居者さんとその五月人形の前で話をしていると、こいのぼりの話題になりました。「息子のもそうだが、孫にも買ったよ」と懐かしみながら、静岡市の高松浄化センターでお孫さんと見に行ったことも話して

くれました。

近くそんなイベントがあったとは！ 調べたところ、思い出のイベントは数年前に実施を取りやめてしまったようでした。他の場所ではやっていないか検索すると、沼津の狩野川や藤枝の蓮華寺池公園などでも開催されていました。しかし残念ながら、今年はどこも会期終了……。来年は入居者さんを連れて現地に足を運んでみたいと思います。

(静岡・特養小鹿なでしこ苑 済生記者 石田遼祐)

★今年に残念……。来年は「空を泳ぐこいのぼり」見れるといいですね。

(本部広報課 大嶋 薫)



元気に暮らしているよとのAさんのメッセージがもれませんね。

(メディカル・リーフ 坂本陽子)

大阪といえぱ!

大阪・中津特養喜久寿苑では、4月18日、食事レクリエーションの一环として「たこ焼きパーティー」(通称たこバ)を実施しました。



フロア全体に行きわたる香ばしい匂い……。入居者さんにも竹くしでたこ焼きをクルクルくりと回してもらいました。

すべての入居者さんに食べていただきたいという思いから、ミンチ状のタコが入った「やわらかたこ焼き君(冷凍食品)」を使用、口腔機能が低

下している方には蒸した状態で、食べられる方にはたこ焼きプレートでカリッと焼いて食べてもらいました。大阪といえぱ「たこ焼き」。各家庭には、「たこ焼き器」もしくは「たこ焼きプレート」があるとのこと。入居者さんも「もちろん家にあつたでー」。

(大阪・中津特養喜久寿苑 生活相談員 浅田桂造)

★皆でワイワイ作って食べて、たこバ楽しいですよ！ 出来たてを幸せそうに頬張る笑顔が目に浮かびます。

(大空出版 高橋美愛)

新人看護師研修 とある一日

大分・日田病院看護部ではこの春12人の新しいスタッフを迎えました。新人看護師研修のとある一日をご紹介します！

この日の研修テーマは「患者体験」。ゴーグルやサポーター、ヘッドホンを装着し、視野が狭い感覚や自由に関節が動かせない状態、聞き取りづらさなどを体験しました。

「視野が狭くて見えにくい」「話しかけられているのかわかりづらい」「足が上がらなくてつまずきやすい」……。では、実際の看護ではどのような対応をするのがよいだろうか？ 「段差や障害物があるときはその都度声をかける」「視野に入りゆっく

広告索引

三井住友銀行
——表紙見返し [表紙 2]

次号予告

済生 No.1141 [令和6年7月号]

済生会の不易流行論 (190) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 鈴木雅之

口福にっぽん (82)

生へぎそば (新潟市)

てづくりおもちや いまいみさ

お疲れさまでした&今後ともよろしくお祈りします

施設長を2年間務めた隅井浩治先生が、3月末に退任しました。

支部長まで務めた先生は、常に各施設とのバランスや協調性を重視した対応をする人でした。一方、経営面では経営改善を始めるにあたり、全職員にヒアリングを実施したほか、経営改善チームを立ち上げるなど尽力いただきました。その結果、前年度から大きく収入を増加することができました。



そんな先生を盛大に送るべく、職員で送別会を企画。幹事が日程調整



命の最前線を支え、 地域を守り続ける。



社会福祉法人
財団法人 済生会滋賀県病院
SAISEIKAI SHIGA HOSPITAL

目標金額 **2,000万円** 2024年6月11日(火)9時~9月9日(月)23時まで

10年間の献身が生んだ成果 次世代のドクターカーへの更新

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

済生会滋賀県病院は、1996年4月に救命救急センターの指定を受けて以降、滋賀県湖南地域（草津市、栗東市、守山市、野洲市）の3次救命救急センターとして、救急集中治療科の医師を中心に、各診療科および各職種のスタッフが一丸となって救急医療に取り組んでいます。

2011年9月からは、救急医と看護師を病気や事故等の救急現場に派遣する「ドクターカー」の運用を開始しました。医師や看護師がドクターカーで現場に赴き、その場で治療を行うことができるため早期医療介入、迅速な根本治療へと繋げることができています。

現在は「救急車型」と「ラビッドカー型」の2台を保有していますが、「救急車型」のドクターカーは、購入から約10年が経過しようとしており、走行距離も10万kmに近づいています。緊急走行は通常の走行とは異なり車両に負担がかかるため、毎日の点検に加え過去には大きな修理も行ってきましたが、現場の最前線で命を守る活動を続けるためにも買い替えが急がれる状況です。

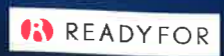
しかし、私たちの力だけではこの大きな課題を乗り越えることは難しい状況にあります。そこでこの度、クラウドファンディングに挑戦することにいたしました。

これからも有事の際に迅速に医療支援を提供し続けるため、ドクターカーの運用や災害時の支援活動を決して止めてはなりません。皆様からの寄付が、私たちの地域を守り、多くの命を救う力となります。どうかあたたかいご寄付をよろしくお願いいたします。

みなさまの
温かいご支援お願いいたします

※各コース金額にシステム手数料（220円/税込）を追加した金額が合計の寄付金額となります。複数コースを選択する場合も、お支払いごとに220円/税込となります。

お問合せ 済生会滋賀県病院 総務課 (月~金 9:00~17:00)
EMAIL: ssh@saiseikai-shiga.jp TEL (077) 552-1221 (代)



https://readyfor.jp/projects/saiseikai-shiga

済生会滋賀県病院 レディーフォー



上記QRコードからクラウドファンディングへ

にいくと「なんで？ 私は4月からも非常勤医師として勤務するのに送別会はおかしいよ」「……！」
そんな、どんでん返し。もあり、集金済みの会費はいったん皆に返し、発注済みの花束だけを受け取っていたたく「施設長退任式」に変更して実施しました。
先生、2年間お疲れさまでした。今後とも週1日よろしくお願ひします!!
(広島・老健はまな荘 済生記者 佐藤 聡)
★以前、喜寿のお祝いにマグカップを贈呈した記事もありました。スタッフの皆さん優しいです。
(本部広報課 河内淳史)



も！、楽しい時間を過ごせました。携帯電話を使える人からは「写真撮って」のリンクエラストが。施設に戻った後、友人にメールをして楽しさを伝えたようです。
利用者さんからは「気持ちがいい、連れてきてくれてありがとう」と感謝の言葉をもらいました。私たちが屋内でのレクリエーションでの表情とは違う皆さんの笑顔を見ることができ、うれしかったです。
(兵庫・小規模特養なでしこ神戸 看護主任 長谷川典子)
★外でのお散歩はよい気分転換になりますね。利用者さんの笑顔や感謝のお気持ちもうれしいですね！
(大空出版 兼本美折)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣 桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。
以来今日まで112年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。
戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

済生 [令和6年6月号]

THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization Saisaikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和6年6月10日発行
通巻第1140号 (第100巻第6号)

編集兼 炭谷 茂
発行人
発行所 社会福祉法人財団法人 済生会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311 (代)
FAX: 03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人財団法人 済生会

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県
病院 81
診療所 20
介護医療院 2
介護老人保健施設 28
介護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 120
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 64
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 10
合計 403 (数字は令和4年度)
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の60島の診療活動に携わっている。
職員数は全国で約6万4000人。



グレーゾーンも含む
発達が気になるお子さま向け

北海道 小樽市 保育園留学

写真提供:社会福祉法人 恩賜財団 済生会



北海道 小樽市 「発達支援事業所 きっずてらす」

北海道 小樽市で、発達が気になるお子さまを対象とした施設
「発達支援事業所 きっずてらす」に通いながら、1~2週間の暮らし体験ができます。
ご家族は一棟貸しのヴィラで滞在ができ、働きながら暮らせる環境が整っています。
ウェルネスタウンとしても注目される小樽市で、暮らし体験をしてみませんか。

対象年齢

1歳児~5歳児

※グレーゾーンも含む発達が気になる
お子さんが対象

留学期間

1週間 or 2週間

※2024年4月~2025年3月

「発達支援事業所 きっずてらす」での保育園留学のポイント



01

充実した専門家による
ハイレベルな支援

作業療法士、言語聴覚士、
公認心理師などプロが在籍



02

生きる力や自信を養う
個別支援と集団活動

個性に合わせたプログラムと
詳細な活動記録を提供



03

ダイナミックな
感覚統合体験

充実した粗大運動器具を用いた
感覚統合トレーニング

認定作業療法士

小玉 武志さん



地域暮らしお子さんへ医療の分野での支援
に加え、自身が立ち上げに参画した通所事
業所での支援や、学校や幼稚園などの訪問
支援にも携わっている。著書に「発達をう
ながすハンドリングー生活動作の介助のポ
イント(2022年)」「マンガでわかる読み書
き指導(2022)」などがある。

ウェルネスタウン北海道小樽市

子どもから高齢者まで、誰もが安心して
住み続けられるまちづくりを目指しています。

新千歳空港から小樽へは

電車です約80分

徒歩8分

新千歳空港

JR 函館本線
「小樽築港駅」

発達支援事業所
きっずてらす

療育プログラムの詳しい内容
現地での過ごし方を
お読みいただけます



お問い合わせ先

保育園留学 運営事務局 運営会社:株式会社キッチンハイク